

令和2年度 事務事業総点検表(1次評価)

観光交流文化局

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費				⑨人工	
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
観光・MICE推進課	199	エール静岡観光事業支援金交付事業	R 2 - R 2	市(直営)	新型コロナウイルスの影響により著しい影響を受けた観光関連事業者の事業継続を支援する	観光関連事業者への支援金交付	①制度設計 ②告知 ③申請受付・交付	①実施 ②実施 ③実施	①実施 ②実施 ③実施	一般	230,300	—	96,595	0.5	0.5
観光・MICE推進課	200	ナイトツーリズム推進事業	H 31 -	市(直営・委託)	日本平からの夜景を軸とした夜の楽しみ方を創出・発信し、観光客の市内滞在時間を延長、市内観光消費の拡大につなげる。	①静岡夜景のブランディング ②日本平の集客力向上 ③ナイトタイムエコノミーの充実	①ブランディングのための委託業務実施 ②日本平山頂での共同イベント実施 ③夜間商品造成のはたらきかけ	①実施 ②2回 ③実施	①実施 ②1回 ③実施	一般	15,000	—	10,163	0.8	0.2
観光・MICE推進課	201	国内都市友好に係る経費(聖一國師顕彰事業)	H 29 -	市(直営)	聖一國師ゆかりの都市との交流を図るとともに、官民連携で設立する「聖一國師顕彰会」と観光交流客数の増加を図る。	聖一國師顕彰会事業による交流人口の拡大。	①事務処理の円滑な実施 ②聖一國師顕彰会の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	2,386	—	2,000	0.1	0.1
観光・MICE推進課	202	滞在型観光推進事業補助金	S 42 -	補助等(交付先)	滞在客誘客促進のため、独自で誘客事業を実施している静岡及び清水ホテル旅館組合に補助金を交付し、更なる事業効果の拡大を図る。	静岡及び清水ホテル旅館組合に補助金を交付する。	①事務処理の円滑な実施 ②滞在型観光推進の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	314	—	314	0.1	0.0
観光・MICE推進課	203	観光宣伝・観光客の誘致経費	H 29 -	市・補助等(直営・交付先)	官民連携で梅ヶ島地区への誘客促進を図るため、梅ヶ島温泉郷の「国民保養温泉地」指定を広く周知するとともに、賑わい創出のためのイベントを支援する。	「国民保養温泉地」梅ヶ島温泉郷のPR及び赤水の滝ライトアップ実行委員会に対し負担金を支出する。	①事務処理の円滑な実施 ②赤水の滝ライトアップ事業開催の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	500	—	131	0.1	0.0
観光・MICE推進課	204	静岡県中部・志太椋原地域連携DMO	H 27 -	補助等(交付先)	静岡県中部5市2町(静岡市・島田市・焼津市・藤枝市・牧之原市・吉田町・川根本町)の広域連携のもと、当地域の「観光目的的地」としての目的地想起率を高め、来訪者数を増加させるとともに、戦略に沿った観光商品の開発を事業者とともにを行い、観光消費や宿泊の拡大を図る。	地域連携DMOであるが企画観光局が主体となり、次の事業を実施する。 ①戦略に基づく商品開発とモニターテスト ②既存資源の情報発信 ③効果測定、市場調査	①負担金交付事務の円滑な実施 ②庁内の連絡調整	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	104,500	—	104,500	1.0	0.0
観光・MICE推進課	205	静岡県観光協会等負担金	S 42 -	補助等(交付先)	観光振興に関する広域的な団体と連携して事業を推進することにより観光誘客を図る。	観光関係団体の会費等を負担し、事業実施に従事する。	①事務処理の円滑な実施 ②観光関係団体等の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	6,775	—	6,607	0.1	0.0
観光・MICE推進課	206	観光案内所運営事務	H 19 -	補助等(交付先)	観光案内所において観光地や宿泊施設、地域資源等の情報発信を行うことにより都市イメージ向上、観光振興及び地域活性化を図る。	公益財団法人するが企画観光局の静岡駅及び清水駅前の観光案内所運営事業に対し、補助金を交付する。	①事務事業の円滑な実施 ②観光案内所の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	24,082	—	24,082	0.1	0.0

成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など				
⑩成果指標(アウトカム指標)						実績値	達成度	⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			当該年度の目標値の算出根拠					
		R1	H30	H29						
支援金交付完了	完了	-	-	-	経営に打撃を受けている事業者に対し、必要な経費を給付することを目的とすることから、支援金の交付完了を目標とした。	完了	A	A	予定どおりの活動指標、成果指標を達成し事業を完遂したため。	本事業は単年度限り
①日本夜景遺産認定地 ②日本平夜市来場者数(月平均)	①4箇所 ②7,250人	①3箇所 ②7,000人	①1箇所 ②4,280人	①1箇所 ②1,250人	①夜景観光のブランドとして毎年追加認定が検討される「日本夜景遺産」の登録地点数の増加を目標とする。(2年に1箇所のペース) ②日本平山頂で集客力のあるイベントである「日本平夜市」の来場者数増加を目標とする。	①3箇所 ②2,750人	①B ②C	A	①は2年に1箇所程度の認定増を目指しているため、R3年度の新規認定を目指す。②はコロナ禍の影響により規模縮小があったため不達成となった。成果指標は目標を下回ったものの、可能な活動を実施し、ポストコロナに向けた事業の改変検討を含め、必要な事業成果を創出することができたと考えられるため。	市内夜景磨き上げのための取組を具体化するとともに、アフターコロナの観光客受け入れに向けて、民間事業者との連携を密にし、夜間の観光商品造成等の取組を進める。
聖一国師ゆかりの都市との交流件数	1件	3件	3件	—	聖一国師顕彰会の事業計画の実施件数を目標値とした。	1件	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、福岡市での視察会等は中止したものの、聖一国師の功績を顕彰するため、逸話をもとに新たな「清い水の水まき」事業を実施した。	人の行き来が制限されるコロナ禍において、いかにして交流を実施するかが課題。感染防止対策を確実に実施したうえで、可能な範囲で交流事業を実施する。
実施事業数	6件	12件	12件	13件	直近3か年の実績の平均値の50%を目標値とした。	10件	S	A	新型コロナウイルス感染症の影響の中で目標を下方修正しながらも、コロナ禍においても実施できる事業について検討を進め、目標値を上回る事業数となった。	コロナ禍においても有効な事業を検討し、必要に応じて助言するなどして支援する。
来場者数	1,300人	2,704人	2,656人	2,433人	直近3か年の実績の平均値の50%を目標値とした。	1,634人	S	A	新型コロナウイルス感染症の影響により来場者数は減少したが、感染拡大防止策をとりながら、夏と秋にイベントを実施するなど、誘客に努めたため。	新型コロナウイルス感染症の感染状況に考慮しつつ、地域住民と連携しながら事業を進め、イベントの周知と感染対策のPRを実施する。
市内宿泊客数	1,895,000人	2,005,176人	1,784,316人	1,816,020人	3次総目標値に準ずる。 ※H30基準値1,763千人(本市のH27-29平均値)から4年で+15%(3次総策策定時の設定値)=2,027千人を目指しており、1年あたりでは66千人の増加が必要となる。(R1:1,829千人、R2:1,895千人、R3:1,961千人、R4:2,027千人) R2:1,829千人+66千人=1,895千人	1,126,921人	C	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、観光客が減少したため目標値の達成はできなかったが、その影響を除けば、オンラインやSNSを活用した情報発信、戦略に基づく商品・コンテンツ開発により、前年度並みの宿泊客が見込まれるため。	地域連携DMOとして、周辺市町との連携や観光のシンクタンク機能強化が課題。そのために、組織内に市町担当者を置き、構成市町との連携を強化するとともに、調査戦略部を設け、シンクタンク機能の強化を図る。
各団体の円滑な運営・事業実施	実施	実施	実施	実施	広域的な連携を図る観光事業実施団体への負担金であり、各団体が円滑かつ効果的に事業を実施することが、本市への観光誘客・観光交流人口の拡大及び地域経済の活性化につながるため。	実施	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業実施の制約が厳しくながらも各団体の事業が効果的に実施されたため。	広域的な連携による観光誘客策を効果的・効率的に実施することが課題。各団体が実施する事業の効果を検証し、より効果の高い事業を選択できるよう、各団体事務局との連携と情報共有を図る。
案内人数	40,000人	118,970人	179,870人	125,874人	直近3か年の実績の平均値の30%を目標値とした。	37,362人	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、観光案内所を閉鎖した期間があり目標値に届かなかったが、その影響を除けば感染対策を講じたうえで適正に運営できている。	静岡駅構内の2か所の案内所が、効果的に機能することが課題。それぞれの利用状況を踏まえ、あり方の検討を行う。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費			⑨人工		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
観光・MICE推進課	207	観光宣伝事業補助金	H 19 -	補助等(交付先)	地域資源を活かした観光客の誘致を推進し、地域経済の活性化を図る。	公益財団法人するが企画観光局の観光宣伝事業に対し、補助金を交付する。	①事務処理の円滑な実施 ②観光宣伝事業の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	10,794	—	10,794	0.1	0.0
観光・MICE推進課	208	するが企画観光局運営費補助金	H 19 -	補助等(交付先)	地域資源を活かした観光客の誘致を推進し、地域経済の活性化を図る。	公益財団法人するが企画観光局運営事業に対し、補助金を交付する。	①事務処理の円滑な実施 ②するが企画観光局の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	109,036	—	109,036	0.1	0.0
観光・MICE推進課	209	静岡県大型観光キャンペーン負担金	H 4 -	補助等(交付先)	観光資源を広く国内外に発信し観光イメージの高揚を図るとともに、観光客の誘致拡大と受入体制の整備促進に必要な諸事業を、県、県内自治体、観光協会等と連携して実施することにより、観光振興と地域活性化を図る。	静岡県大型観光キャンペーン推進協議会が実施する観光資源紹介宣伝、各種イベント、観光客誘致事業等に対し、負担金を支出する。	①事務処理の円滑な実施 ②静岡県大型観光キャンペーン推進協議会事業の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	1,124	—	1,124	0.1	0.0
観光・MICE推進課	210	中央日本総合観光機構負担金	H 18 -	補助等(交付先)	東海、北陸、信州各地域が相互に連携し広域観光の推進を図ることにより、観光客の誘致・交流人口の拡大を図る。	当機構の会費を負担し、事業実施に従事する。	①事務処理の円滑な実施 ②当機構の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	1,500	—	1,500	0.1	0.0
観光・MICE推進課	211	海外プロモーション事業	H 21 -	市(直営)	本市の知名度や来静意欲の向上、将来的な交流促進を図り、集客交流都市の実現を目指す。	①韓国・静岡市旅行ブログによる情報の受発信 ②台湾・旅行商品販売促進事業 ・旅行社社招請事業 ・ブローカーの招請事業 ・台北マラソン交流事業	①ブログ等の円滑な運営支援 ②旅行商品造成に向けた働きかけ	①実施 ②実施	①実施 ②未実施	一般	①2,388 ②3,229	—	①2,278 ②0	0.7	0.0
観光・MICE推進課	212	富士山静岡空港利用促進協議会負担金	H 27 -	補助等(交付先)	県、県内市町、民間事業者との連携により、大規模社会資本である富士山静岡空港の利用促進を図ることで本市の知名度や魅力の向上を図る。	①負担金交付事務 ②運営補助	①事務処理の円滑な実施 ②富士山静岡空港利用促進協議会の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	5,000	—	5,000	0.2	0.0
観光・MICE推進課	213	デスティネーションキャンペーン推進事業	H 30 - R 2	補助等(交付先)	デスティネーションキャンペーン2019を契機として、商品開発の推進や、情報発信の強化により全国からの観光客の誘致を図る。	令和2年度はDC本番の翌年として今後の誘客に向けた誘致活動を継続的に行う。	①事務処理の円滑な実施 ②静岡県大型観光キャンペーン推進協議会事業の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	532	—	238	0.1	0.0
観光・MICE推進課	214	地域イベント開催事業補助金	H 15 -	補助等(交付先)	地域社会の連帯及び協調の促進し、本市を訪れる観光客の増加を図る。	地域住民が連帯して開催する祭り、レクリエーション等のイベントを開催する者に対して補助金を交付する。	各地域イベントに係る補助金交付事務処理の円滑な実施	実施	実施	一般	1,100	—	300	0.1	0.1
観光・MICE推進課	215	駿府浪漫バス運行業務	H 12 -	市(委託)	静岡中心市街地のまち歩き観光の促進と観光客の利便性向上のため、巡回バスを運行し、観光客の増加及び観光消費の活性化を図る。	自主運行バスの運行業務を委託し、円滑な運行管理と利用促進事業を行う。	事務処理の円滑な実施	実施	実施	一般	18,931	—	18,686	0.4	0.1

成果(アウトカム)					評価及び次年度以降に向けた課題・改善など					
⑩成果指標(アウトカム指標)					実績値	達成度	⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容	
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値								当該年度の目標値の算出根拠
		R1	H30	H29						
観光展等出展数	5回	20回	20回	22回	直近3か年の実績の平均値の25%を目標値とした。	5回	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により観光展の開催自体が少ないが、情報収集や感染対策を徹底しながら目標回数どおり実施できたため。	新型コロナウイルス感染症の影響により、出展可能な観光展は令和3年度も少ない見込み。その中で、いかに効果的・効率的に参加するかが課題。観光展出展以外のPR手法についても検討を進める。
団体の円滑な運営支援	実施	実施	実施	実施	するが企画観光局が本市のパートナーであり、強気に連携するため、団体の円滑かつ安定的な運営を実施することを目標とした。	実施	A	A	市外郭団体経営計画書に基づき、団体の円滑かつ安定的な運営が図られた。	経営計画の着実な実行、必要に応じて適宜、見直しを実施する。
国内における観光PR・誘致活動への参加件数	2回	3回	3回	3回	各自治体等がリモートで参加できる商談会が2回あり、目標値とした。	2回	A	A	オンラインでの商談会に参加し、旅行会社等への情報発信を目標回数どおり実施した。	新型コロナウイルス感染症への対応状況にあわせて、オンライン又は現地での商談会に参加する。
当機構の円滑な運営・事業実施	実施	実施	実施	実施	広域的な連携を図る当機構への負担金であり、当機構が円滑かつ効果的に事業を実施することが、本市への観光誘客・観光交流人口の拡大及び地域経済の活性化につながるため。	実施	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、訪客データベースの構築など、今後の誘客促進に繋がるデータの収集が可能になった。	9県3市の広域な枠組みの中で、本市の交流人口増加を図れるかが課題。当機構のスケールメリットを活かし、海外への情報発信を主とした、インバウンド増加を図る。また、当機構の事業を積極的に活用し、本市のPR機会を創出する。
①韓国 ブログアクセス数 ②台湾 旅行商品販売促進事業申請件数	① 50,000件 ②1件	① 166,944件 ②2件	① 112,926件 ②4件	① 92,900件 ②2件	直近3か年の実績の平均値の40%を目標値とした。	① 54,453件 ②未実施	①S ②-	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、富士山静岡空港の海外便が停止されたため、旅行商品販売促進事業は実施できなかったが、韓国ブログについては、事業が適正に実施され目標値を上回る事ができた。	海外旅行ができない状況の中で、本市への関心度の維持が課題。本市への関心を維持させる継続的な情報発信に努める。
富士山静岡空港 利活用地域連携 事業申請件数	1件	12件	14件	15件	直近3か年の実績の平均値の10%を目標値とした。	1件	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、申請件数は大きく減少したが、目標値は達成できている。	新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、空港利用に関する補助金制度の周知と、就航先との相互によるプロモーション活動を促進していく。
臨済寺特別公開 参加者数	480人	477人	534人	—	臨済寺特別公開の定員数(20名×24回開催)を目標値とした。	491人	A	A	新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら、目標値を達成することができた。	DC期間は令和2年度で終了となるが、誘客に向けた情報発信や誘致活動は継続していく。
補助制度活用イベントによる集客数	1,000人	7,550人	24,238人	24,235人	直近3か年の実績の平均値の5%を目標値とした。	1,888人	S	A	新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントが中止され、集客数は大きく減少したが、その影響を除けばコロナ禍以前並みの実績が見込まれるため。	地域イベントにおける新型コロナウイルス感染症対策が課題。補助決定時に、主催者と協議し、感染対策はもとより、感染状況によっては中止を含めた対応協議を依頼する。
1便当たりの利用者数	6人	8.3人	10.4人	11.6人	直近3か年の実績の平均値の60%を目標値とした。	5.2人	B	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、バス利用者は大きく減少した。その影響を除いても、利用者は減少傾向が見られるため。	利用者低迷が課題。しずてつジャストラインと調整・連携を図りつつ、利用促進につながるプロモーションを実施していく。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費			⑨人工		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
観光・MICE推進課	216	全国大会等開催補助金	H 12 -	補助等(交付先)	全国的規模の各種大会の誘致を促進して観光客の増加を図る。	全国的規模の大会等を開催する者に対して補助金を交付する。	各大会等に係る補助金交付事務処理の円滑な実施	実施	実施	一般	33,000	—	3,452	0.1	0.5
観光・MICE推進課	217	Go To しずおかキャンペーン事業	R 2 - R 2	市・補助等(直営・交付先)	国、県と連携して、観光需要喚起策を実施し、誘客促進を図る。	官民連携で市内宿泊施設の宿泊者に対して商品券を配付する。	事務処理の円滑な実施	実施	実施	一般	225,000	—	221,955	0.1	0.0
観光・MICE推進課	218	環駿河湾観光交流活性化協議会負担金	H 25 -	補助等(交付先)	貴重な観光資源である清水・土肥航路を活用し、環駿河湾地域を周遊する観光を促進して、同地域における交流人口の拡大及び地域活性化を図る。	環駿河湾観光交流活性化協議会が実施する、環駿河湾地域の周遊観光を促進する事業に対し、負担金を支出する。	①事務処理の円滑な実施 ②環駿河湾地域周遊観光促進事業の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	3,500	—	3,500	0.8	0.0
観光・MICE推進課	219	コンベンション・シティ推進事業	H 19 -	補助等(交付先)	各種会議・大会・展示会・見本市などの開催を本市に誘致することで、国内外からの誘客を図る。	公益財団法人するが企画観光局が独立行政法人国際観光振興機構と連携して実施するコンベンション推進事業に対し負担金を支出する。	①事務事業の円滑な実施 ②コンベンション推進事業の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	8,316	—	8,316	0.1	0.0
観光・MICE推進課	220	駿河湾フェリー運航支援事業	H 31 -	補助等(交付先)	駿河湾フェリーの運航を継続させることで、環駿河湾地域を周遊する観光を促し、同地域における交流人口の拡大及び地域活性化を図る。	県及び環駿河湾地域3市3町で構成する(一社)ふじさん駿河湾フェリーの運営費の一部を負担する。	事務処理(負担金の支払い等)の円滑な実施	実施	実施	一般	23,800	—	23,800	0.5	0.0
観光・MICE推進課	221	駿河湾フェリー子ども利用促進事業	H 31 -	市(直営)	駿河湾フェリーの利用を促し、環駿河湾地域における交流人口の拡大及び地域活性化を図る。	市内小学生とその保護者等に対して招待券を配布し、フェリーの利用を促す。	無料乗船キャンペーン参加者数	1,000人	2,618人	一般	5,000	—	5,000	0.1	0.0
観光・MICE推進課	222	静岡県体験観光推進事業	H 17 -	補助等(委託・交付先)	小中学生等の体験教育旅行に関する企画、誘客、受入を推進し、観光誘客と交流促進を図る。	①体験型教育旅行のプログラム作成 ・モニターツアーの実施 ②体験型教育旅行の誘致活動 ・首都圏、山梨、長野への営業	①モニターツアー実施件数 ②国内学校等への営業件数	①3件 ②24件	①3件 ②13件	一般	3,929	—	3,929	0.1	0.2
観光・MICE推進課	223	伝統芸能振興事業	H 24 -	補助等(交付先)	芸妓芸能を活用した誘客促進と地域観光の発展に寄与し、本市の観光地としての魅力向上を図る。	伝統芸能振興会に芸妓芸能振興事業補助金を交付する。	①事務処理の円滑な実施 ②伝統芸能振興事業の円滑な運営支援	遅滞なく補助金を交付	①実施 ②実施	一般	6,000	—	5,421	0.1	0.2
観光・MICE推進課	224	東海道2峠6宿街道事業	H 20 -	補助等(交付先)	東海道2峠6宿において、地域の魅力を多様な世代で共有し、楽しめる新たなまち歩き観光の価値を創出し、街道観光を確立する。	静岡二峠六宿街道観光協議会へ負担金を支出し、街道観光を推進する。	①事務処理の円滑な実施 ②二峠六宿街道観光協議会の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	600	—	600	0.1	0.0

成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など				
⑩成果指標(アウトカム指標)						実績値	達成度	⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			当該年度の目標値の算出根拠					
		R1	H30	H29						
補助対象となった全国大会等における宿泊人数	10,000人	35,233人	33,383人	35,719人	直近3か年の実績の平均値の30%を目標値とした。	2,200人	C	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの大会が中止となり目標値には届かなかったが、補助金交付条件の緩和、新型コロナウイルス感染症対策にかかる上乗せ補助等、補助金交付要綱の改正を実施したため。	アフターコロナに向け、先行したMICE誘致につながる情報発信をしていくことが課題。過去にMICE開催実績のある団体にDMを送付するなど対応していく。
商品券の配付人数	80,000人	—	—	—	配布対象見込みが2万人/月、事業期間を4か月と見込んだため	114,989人	S	S	目標値を大幅に上回る114,989人の宿泊客に商品券を配付し、地域に一定の経済効果があったため。	当該事業は令和2年度の単年度事業。令和3年度以降、新たな観光需要策実施時の参考とする。
駿河湾フェリーの年間輸送人員数	76,000人	129,756人	172,399人	167,286人	駿河湾フェリー運航会社(一社ふじさん駿河湾フェリー)が策定した「経営改善戦略」に基づく数値を目標値とした。	80,021人	S	A	新型コロナウイルス感染症の影響による運休もあり、例年と比較すると利用者が著しく少ないが、追加支援や各種施策を実施したことで、運航会社が目標とする利用者数を達成することができた。	新型コロナウイルス感染症の影響が見通せない中で、安定的な利用者確保が課題。そのために、経営改善戦略を確実に実行できるよう、情報発信事業等を通じて支援を行っていく。
コンベンション支援件数	9件	158件	176件	179件	直近3か年の実績の平均値の5%を目標値とした。	12件	S	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、多くのコンベンションが中止となったが、アフターコロナにおけるコンベンション誘致を促すためオンライン商談会やDMによる情報提供などを積極的に行ったため。	新型コロナウイルス感染症の影響によりコンベンションの実施方法が変化する中で、リアルとオンラインを併せたハイブリッド型の実施にも対応できる誘致施策を検討する。
駿河湾フェリーの年間輸送人員数	76,000人	129,756人	172,399人	167,286人	駿河湾フェリー運航会社(一社ふじさん駿河湾フェリー)が策定した「経営改善戦略」に基づく数値を目標値とした。	80,021人	S	A	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、4月～6月の運休期間もあり、例年と比較すると利用者が著しく少ないが、追加支援等各種施策の実施により、運航会社が目標とする利用者数を達成することができたため。	新型コロナウイルス感染症の影響が見通せない中で、安定的な利用者確保が課題。そのために、経営改善戦略を確実に実行できるよう、情報発信事業等を通じて支援を行っていく。
駿河湾フェリーの年間輸送人員数	76,000人	129,756人	172,399人	167,286人	駿河湾フェリー運航会社(一社ふじさん駿河湾フェリー)が策定した「経営改善戦略」に基づく数値を目標値とした。	80,021人	S	A	小学生無料乗船CPや修学旅行に特化した新規事業を行うなど、利用者確保に向けた取り組みを積極的に行ったため。	当該事業は令和2年度で終了。今後は、経営改善戦略を確実に実行できるよう、情報発信事業等を通じて支援を行っていく。
しずおか体験教育旅行会員施設利用者数	47,000人	47,171人	47,963人	50,643人	新型コロナウイルス感染症拡大の影響が見通せないため、昨年度と同程度の利用者数を目標とした。	65,552人	S	S	新型コロナウイルス感染症の影響により、首都圏を目的地とした教育旅行が敬遠され、近隣県を訪問する傾向が強まった。これをチャンスと捉え、関係者と連携して、山梨・長野等へ積極的な営業活動やモニターツアーを実施した。	アフターコロナも教育旅行の行先として選ばれ続けることが課題。そのため、本市でしか体験出来ないコンテンツをPRするほか、モニターツアーを実施し、継続的な需要獲得に努める。
申請件数	80件	82件	119件	115件	新型コロナウイルス感染症拡大の影響が見通せないため、前年度と同程度の件数を目標とした。	78件	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により大人数での会合が催されず申請件数が落ち込んでいたが、補助金交付条件を緩和することで、芸妓芸能の利用促進を行った。	芸妓事業が広く認知され、安定的に利用されることが課題である。そのため、情報発信に努めるとともに、補助金交付条件緩和を継続し、利用しやすい環境を継続する。
歴史や文化を身近に感じることができるまちだと思ふ市民の割合	63.1%	64.1%	62.6%	62.6%	第3次総合計画における、「歴史や文化を身近に感じることができるまちだと思ふ市民の割合」の数値設定より算定。	61.8%	A	A	「静岡二峠六宿街道観光推進協議会」の実施する事業が円滑・効果的に実施されたことにより、目標値を概ね達成したため。	協議会事業と市の事業方針の関連性を整理し、連携を明確化する。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費			⑨人工		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
観光・MICE推進課	225	東海道歴史街道まち歩き推進事業	H 28 ~	補助等(市・交付先)	東海道歴史街道で育まれ根付いてきた地域資源を活用した、本市ならではの街道観光の確立により、観光誘客を促進し、地域経済の活性化を図る。	街道の魅力情報を発信するとともに、周遊を促すために体験商品を提供する。	①事務処理の円滑な実施 ②関係機関等との適時・適正な連絡調整	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	39,609	—	14,573	1.0	0.0
観光・MICE推進課	226	お堀の水辺活用事業(葵舟)	H 31 ~	補助等(市・交付先)	駿府城公園周辺エリアにおける新たな歴史観光コンテンツの一つとして、静岡都心の賑わいを創出するとともに、「歴史文化のまちづくり」を促進する。	公募にて運営主体を決定し、船体意匠を実施したうえで、本格運行を開始する。	①運営事業者の決定 ②補助金支出	①決定 ②実施	①決定 ②実施	一般	8,494	—	6,599	1.4	0.0
観光・MICE推進課	227	駿州の旅日本遺産事業	R 2 ~	補助等(交付先)	地域の歴史、文化及び景観等の資源を活用した地域間交流と街道観光の推進に関する事業を通じて、交流人口の拡大を図り、地域経済の活性化を図る。	本事業を実施する駿州の旅日本遺産推進協議会に対し負担金を支出するとともに、成果を高めるため、本市事業との連携を図る。	①事務処理の円滑な実施 ②協議会との適時・適正な連絡調整	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	3,900	—	2,919	1.5	0.0
観光・MICE推進課	228	今川歴史街道整備事業	R 2 ~R 2	市(委託)	令和元年度に開催された今川義元公生誕500年祭のレガシー事業として今川家所縁の地を巡る案内等を整備し、周遊促進を図る。	静岡浅間神社から臨濟寺を結ぶ麻機街道沿いに、案内看板や路面シート、デザインマンホールを設置する。	事務処理の円滑な実施	実施	実施	一般	3,120	—	2,542	0.1	0.0
観光・MICE推進課	229	観光案内看板多言語化事業	H 30 ~	市(直営)	訪日外国人観光客の受入れ環境整備。まち歩き観光に寄与する円滑な目的地案内のための誘導看板等の多言語化整備を国、県のガイドライン及び本市公共サインマニュアルに基づき実施する。	①観光案内サインの設置状況の調査 ②観光案内サインの多言語化整備	①現状調査 ②修繕工事	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	2,664	0	1,199	0.8	0.1
観光・MICE推進課	230	東海道広重美術館管理運営事業	H 25 ~	市(委託)	東海道五十三次を代表作とする歌川広重の浮世絵を所蔵し、市民・観光客に広く閲覧することで、文化の振興と、街道観光に寄与する。	施設の維持管理運営を行う。また、指定管理者の事業により、施設の高度利用と魅力づくりを図る。また、広重美術館及び由比本陣施設指定管理者とともに集客対策を進める。	①指定管理事務の実施 ②連絡会議の開催 ③六宿観光ガイドの発行	①実施 ②年6回以上 ③年4回以上	①実施 ②11回 ③4回	一般	40,126	0	38,106	0.4	0.1
観光・MICE推進課	231	日本平山頂部周辺美化推進事業	—	市(直営)	日本平山頂の美観の維持	日本平山頂の固有地へ季節の花の植苗	①植栽計画の検討 ②花の植苗	①実施 ②12回以上	①実施 ②実施	一般	942	0	900	0.1	0.0
観光・MICE推進課	232	観光地及び観光施設維持管理事業	—	市(直営・委託)	各地域の特色を活かした観光地を保全し、利用者への満足度向上を図る。	施設の維持管理を行い、施設の特性を活かした快適な空間を実現する。	①委託事務の実施 ②必要に応じた修繕	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	57,380	0	47,423	0.5	0.0
観光・MICE推進課	233	三保真崎広場管理運営	H 16 ~	市(直営・委託)	三保地区を訪れる観光客の体験メニューを多角化することにより、利用者層の多様化と滞在時間の増加を図る。	施設の維持管理運営及び集客対策を行う。	①維持管理業務の実施 ②利用団体や旅館等へのチラシ配布やPR	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	4,802	0	4,539	0.4	0.3

成果(アウトカム)					評価及び次年度以降に向けた課題・改善など					
⑩成果指標(アウトカム指標)					⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容			
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値						実績値	達成度	
		R1	H30	H29						
当該年度の目標値の算出根拠										
①東海道宿場ガイドWEBのクセス数 ②駿河 東海道おんぱくにおける掲載プログラム数	① 32,000件 ② 10PG	① 27,491件 ② 44PG	①— ② 58PG	①— ② 39PG	①前年度から15%増を目標値に設定 ②前年度実績を基にコロナ禍の影響を考慮し設定	① 136,000件 ②未実施	①S ②— A	アクセス数は当初目標を大幅に上回ったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、おんぱくにおける通常のイベントは開催しなかった。その他、日本遺産認定を受け、宿場に特化したプログラム造成するための調査分析を実施した。	本市ならではの観光資源の掘り起しと観光商品の開発を促進するため、引き続き駿河東海道おんぱくへの取組みを効果的に実施する。	
運航開始	完了	完了	—	—	運航主体者を決めて、令和2年度末からの事業開始を目指していることから設定。	完了	A	A	運航主体者を公募により決定し、3月27日から本格運行を開始できた。	コロナ禍における観光客減の状況の中、いかに集客を増やしていくのか、効果的な広報活動を検討するとともに、運行主体者を支援していく。
歴史や文化を身近に感じることができるまちだと思ふ市民の割合	63.1%	—	—	—	第3次総合計画における、「歴史や文化を身近に感じることができるまちだと思ふ市民の割合」の数値設定より算定。	61.8%	A	A	今後の日本遺産の方向性を示すランドデザインを策定するとともに、ガイド養成講座、新聞紙面を活用した普及啓発を実施した。	効果的な周知啓発を実施し市民の郷土愛醸成と観光商品等の開発を通じて誘客を図る。
今川義元公を「海道一の弓取り」「今川文化の保護者」とイメージする人の割合	50.0%	36.8%	45.1%	—	平成30年度の数値から5%増加させることを目標とする。	59.6%	S	S	案内看板等の設置等の事業が円滑・効果的に実施されたことにより、目標値を概ね達成したため。	効果的な周知啓発を実施し観光ボランティアガイドや観光事業者に向けて情報提供し周遊促進を図る。
調査および整備地区数	2地区	2地区	3地区	—	外国人観光客の訪問エリアにおける整備計画に対する実績値	2地区	A	A	令和2年度は三保地区観光案内サインの修繕のほか、蒲原・由比地区観光案内サインの現状調査を行い、計画通り実施できている。	東海道に含まれる地域の整備を行う際には、日本遺産のランドデザイン等の方針に則った整備を行う。
来場者アンケートの満足度(5段階評価で4以上の割合)	80.00%	73.20%	73.40%	73.40%	例年、直近3か年の来場者数の平均値を目標値としているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標値の設定が困難であるため、業務仕様書に設定されている来場者アンケート満足度の目標値を指標として設定した。	83.70%	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、来場者数は例年を下回ったものの、感染症対策を徹底しながら安全な施設運営を行い、来場していただいた方から高い満足度を得られたため。	桜えび不漁や新型コロナウイルス感染症の影響下にあるが、アンケート結果や利用者の声を取り入れるとともに、同敷地内の由比宿交流館と連携し利用者の満足度向上に努める。
花苗の植栽による美観の維持	実施	実施	実施	実施	季節に応じた花苗を植栽することにより美観を維持する。	実施	A	A	年度当初に年間の植栽計画の検討を行い、目標どおり12回の植栽を実施した。	日本平夜市などの定期的なイベントも再開されてきており、来訪者の満足度向上のため、引き続き山頂美化を行っていく。
施設瑕疵による事故発生件数	0件	0件	0件	0件	適切な施設管理が目的の事業であるため、管理不行き届きによる事故の発生をなくすことを目的とした。	0件	A	A	指標のとおり、施設瑕疵による事故の発生がなかった。	適切な維持管理と合わせて、利用者満足度も考慮して事業を進める。
来場者数	16,500人	14,633人	16,909人	17,716人	台風被害等の外的要因により来場者数が増減するため、直近3か年の来場者数の平均値を目標値とした。	13,357人	B	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、三保真崎グラウンドゴルフ場が42日間休場したことで目標値に届かなかったが、その影響を除けば、再開後の施設利用者数は前年と同程度に回復し、適正に執行されていた。	改訂したパンフレットを生涯学習交流館等の市有施設や観光関係事業者へ提供しPRを進めるとともに、中部横断自動車道の新線開通にあわせて隣接市町からの新規利用者層の開拓を図る。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費			⑨人工		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
観光・MICE推進課	234	清水港船宿記念館管理運営	H13～	市(委託)	次郎長翁の功績と清水地区の歴史、文化を紹介することで、清水港エリアのまち歩き観光の拠点として活用する。	施設の維持管理運営を行う。また、指定管理者の行う事業により、施設の高度利用と魅力づくりを図ると共に、情報を発信し集客を図る。	①指定管理事務の実施 ②六宿観光ガイドの発行	①実施 ②年4回以上	①実施 ②年4回	一般	8,022	0	7,933	0.4	0.0
観光・MICE推進課	235	御殿山等維持管理事業	～	市(直営)	御殿山等、蒲原地区観光施設の適切な管理による観光振興を図る。	御殿山等由比・蒲原地区の観光施設の維持管理(蒲原支所と連携を図る)	①維持管理業務の実施 ②必要に応じた修繕	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	7,436	0	7,266	0.4	0.0
観光・MICE推進課	236	興津坐漁荘記念館管理運営事業	H16～	市(委託)	興津地区および周辺地域を結びつけ、観光コースの拠点として地域の活性化と観光振興を図る。	施設の維持管理運営及び観光情報を発信し集客対策を行う。	①事務の実施 ②六宿観光ガイドの発行	①実施 ②年4回以上	①実施 ②年4回	一般	8,561	0	8,554	0.4	0.0
観光・MICE推進課	237	観光駐車場管理運営事業	H20～	市(委託)	中心市街地等へのバスによる来訪者への利便性向上を図る。	施設の維持管理運営	事務の適正な実施	実施	実施	一般	6,331	0	6,303	0.2	0.2
観光・MICE推進課	238	由比本陣記念館等管理運営事業	H22～	市(委託)	由比地区の観光・産業を案内するとともに、地域活動の拠点として活用する。	施設の維持管理運営を行う。また、指定管理者の事業により、施設の高度利用と魅力づくりを図る。由比本陣施設及び広重美術館指定管理者とともに集客対策を進める	①指定管理事務の実施 ②連絡会議の開催 ③六宿観光ガイドの発行	①実施 ②年6回以上 ③年4回以上	①実施 ②年11回 ③年4回	一般	17,992	0	17,897	0.4	0.1
観光・MICE推進課	239	地域観光施設整備事業補助金	～	補助等(交付先)	自治会等地域活動団体が行う観光事業(施設整備事業)の費用の一部を補助することにより、地域における観光振興の一助とする	地域団体が設置する観光施設整備事業経費の一部補助	①交付件数 ②報告書確認件数 ③検収・確定件数	①1件 ②1件 ③1件	①0件 ②0件 ③0件	一般	2,357	0	0	0.1	0.0
観光・MICE推進課	240	観光案内板等多言語化整備事業	H25～	市(直営)	外国人観光客の満足度向上を図るための受入環境の整備	観光案内板を多言語表示対応に板面変更、または更新を行う。	エリア内の看板整備件数	3件	3件	一般	2,140	0	2,029	0.2	0.0
国際交流課	241	国際化推進事業	S34～	市(直営)	本市の姉妹都市・友好都市、その他海外都市等との国際交流を行い、市民の国際理解を促進するとともに、市の国際化を推進する。	①姉妹都市提携55周年記念事業(オマハ) ②第7回日仏自治体交流会議 ③CLAIR海外自治体幹部交流セミナー(ロンドン) ④国際交流員(CIR)活用	①親善使節団派遣・受入事業延期に向けた調整 ②日仏自治体交流会議延期に向けた調整 ③セミナー開催延期に向けた調整 ④国際交流員の配置	①1件 ②1件 ③1件 ④3名	①1件 ②1件 ③1件 ④3名	一般	1,798	—	154	1.0	1.0
国際交流課	242	静岡市国際交流協会補助金	H1～	補助等(交付先)	市の国際交流及び多文化共生の促進を図るため、国際化推進に資する事業を行う(一財)静岡市国際交流協会に対して、補助金を交付する。	補助金交付事務	補助金交付	1件	1件	一般	48,351	—	42,476	1.0	0.0

成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など				
⑩成果指標(アウトカム指標)						実績値	達成度	⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			当該年度の目標値の算出根拠					
		R1	H30	H29						
来場者アンケートの満足度(5段階評価で4以上の割合)	80.00%	92.90%	94.30%	94.40%	例年、直近3か年の来場者数の平均値を目標値としているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標値の設定が困難であるため、業務仕様書に設定されている来場者アンケート満足度の目標値を指標として設定した。	94.24%	S	A	清水港への客船寄港時の臨時開館など、来静客の受入れ体制の強化が見られ、利用者アンケートからも従事者が誠実な対応ができていくことが伺える。六宿観光ガイドでは四季に応じた催事・展示のPRを行い誘客を図るとともに、展示物の更新をするなど、リピーター獲得に向けた新たな魅力づくりが行われた。	新型コロナウイルス感染症の影響により清水港への客船寄港回数が減少したこと等、団体旅行客が減少する中で、感染防止対策を引き続き徹底し、施設認知度の向上、まち歩きの出発点としての機能強化を図る。
施設の瑕疵による事故発生件数	0件	0件	0件	0件	適切な施設管理が目的の事業であるため、管理不行き届きによる事故の発生をなくすことを目的とした。	0件	A	A	目標を達成できた。	今後も引き続き適切な施設管理を行う。
来場者数	11,500人	9,761人	12,375人	12,378人	各年度の傾向の分析を踏まえ過去3年間の平均値を目標とした。	4,979人	C	A	新型コロナウイルス感染症の影響により来場者数が落ち込んだことで目標値に届かなかったが、その影響を除けばイベント等の集客対策事業は感染症対策のうえ適正に実施できたため。	新しい生活様式に沿った対策を実施し清水区における観光拠点として、来館者の増加のために周辺の施設間での周遊を促していく。
①昼間駐車場利用台数 ②夜間駐車場利用台数	①2,437台 ②350台	①2,459台 ②428台	①3,003台 ②395台	①3,434台 ②334台	①隣接工事の影響で駐車区画が20台から10台になったことを考慮し、直近3か年の利用台数の平均の75%を目標値とする。 ②直近2か年の利用台数の平均値を目標とする。	①1,480台 ②65台	①C ②C	A	新型コロナウイルス感染症の影響により観光バスの駐車場利用台数が減少したことで目標値に届かなかったが、その影響を除けば施設の維持管理等の業務は適正に実施できたため。	R5年度中の歴史文化施設会館や、R8年度以降の移転先の検討なども踏まえ、今後の方向性について検討していく必要がある。
来場者アンケートの評価(5段階で4以上)	80.00%	83.00%	83.00%	84.85%	例年、直近3か年の来場者数の平均値を目標値としているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標値の設定が困難であるため、業務仕様書に設定されている来場者アンケート満足度の目標値を指標として設定した。	85.82%	S	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、来場者数は例年を下回ったものの、感染症対策を徹底しながら安全な施設運営を行い、来場していただいた方から高い満足度を得られたため。	桜えびの不漁や新型コロナウイルスの影響下にあるが、アンケート結果や利用者の声を取り入れるとともに同敷地内の広重美術館と連携して利用者の満足度向上に努める。
利用団体	1団体	1団体	2団体	1団体	当該補助金は、地域における観光施設整備を促進し、観光と地域の振興をより図ることを補助金交付の主旨としている。	0団体	C	B	補助金交付実績は0件だったが、制度活用に関する自治会からの相談に対し、説明を行うなど、制度の周知・案内を行った。	補助金制度の利用をさらに促すため、市ホームページ等も活用し関係団体へ周知していくこととする。
実施エリア数	1地区	2地区	1地区	2地区	外国人旅行者の受け入れ態勢の充実を図るため、外国人観光客の訪問が見込まれる観光地の多言語化整備の実績数を目標として設定した。	2地区	S	A	当初予定していた1箇所の改修を見送ったものの、対応が必要となっていた大型道路看板の改修を含む2地区、計3箇所の多言語化改修を行った。	引き続き、適宜改修計画の見直しを行い、多言語化改修を実施していく。
公式訪問者受入人数(本課対応分)	6人	64人	135人	165人	新型コロナウイルス感染症の影響による全国の訪日外客数が前年比90%減となった現状を踏まえ、前年度指標64人の90%にあたる6人に目標値を変更した。	6人	A	A	コロナ禍で移動が制限され、本市への訪問が困難な状況下ではあったが、可能な範囲で対応した。	新型コロナウイルス感染症の感染状況により、訪問の受入れ可否につきその都度臨機応変に対応していく必要がある。オンラインで代替可能なものについてはオンラインでの対応も検討していく。
(一財)静岡市国際交流協会の各実施事業満足度の平均値	90%	90%	88%	—	同協会が策定した「経営計画」の進捗管理において毎年度実施するアンケート調査の結果を指標とし、高い達成水準であった前年度実績値を目標値とした。	94%	A	A	コロナ禍における対面事業が大幅に縮小されたものの、オンライン等の活用による工夫を凝らした取組により、おおむね高い満足度を得ることができた。	法人化1年目である令和2年度の決算において619万円余の一般正味財産増を果した。令和3年度以降も引き続き経営体質の改善、事業の質の向上を図るよう支援していく。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費			⑨人工		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
国際交流課	243	多文化共生協議会事業	H 11 -	市(直営)	市内に住む外国人住民等が地域の一員として、自らの生活の問題について検討し、外国人住民等の意見を行政に反映させる。	①多文化共生協議会の開催、市への提言	開催回数	4回	4回	一般	695	—	675	1.2	1.0
国際交流課	244	多文化共生人材育成事業	H 27 -	市(直営)	本市の国際化・多文化共生を推進するため、国際交流員等を派遣し国際感覚豊かな市民や次世代を担う人材の育成を図る。	①英語・中国語・フランス語国際交流員(CIR)の派遣によるこども園等を対象とした国際理解講座や市政出前講座の開催 ②外国人住民の地域交流を促し地域の中で多文化共生活動をすすめるサポーター養成講座の開催	①国際理解講座、市政出前講座の派遣回数 ②多文化共生サポーター養成講座の開催回数	①70回 ②5回	①87回 ②5回	一般	330	—	274	0.5	2.4
国際交流課	245	多文化共生啓発事業	H 27 -	市・補助等(直営・交付先)	本市の国際化・多文化共生を推進するため、市民の多文化共生意識の向上と地域交流の促進を図る。	①「静岡わいわいワールドフェア」開催事業 ②「ともに暮らす外国人から学ぶ国際理解促進事業」 ③外国人住民アンケート調査	①フェアの実施 ②講座開催回数 ③調査実施	①1回 ②3回 ③実施	①1回 ②3回 ③実施	一般	3,067	—	2,115	0.9	1.4
国際交流課	246	多文化共生総合相談センター運営事業	H 31 -	市(委託)	外国人住民からの生活上の相談等に多言語で対応する体制を整える。	令和元年9月に開設した運営多文化共生総合相談センターの運営	多言語に対応した総合相談センターの適切な運営	実施	実施	一般	13,070	—	13,032	0.5	0.0
国際交流課	247	自治体国際化協会静岡市支部負担金	H 17 -	補助等(交付先)	地域の国際化の推進を図るため、地方公共団体の共同組織として設置された自治体国際化協会へ負担金を支出する。	①静岡市支部として、自治体国際化協会の分担金を支出 ②協会が提供するメニューの活用	①活用メニューの申請・報告等事務処理の円滑な実施 ②自治体国際化協会との連絡	①実施 ②随時	①実施 ②随時	一般	10,000	—	9,000	0.1	0.0
歴史文化課	248	歴史文化推進事業	H 28 ~R 4	補助等(市・交付先)	歴史文化のまちづくりを推進するため、家康公が愛したまち静岡の情報を発信し、市内の歴史資源への関心を高める。	徳川みらい学会等と連携した家康公顕彰事業や地域の歴史を研究する事業の実施	徳川みらい学会と連携した家康公顕彰事業の実施	2回/年	2回/年	一般	2,428	—	2,120	1.0	0.0
歴史文化課	249	今川義元公生誕五百年祭推進事業	H 30 ~R 2	補助等(交付先)	令和元年に本市ゆかりの戦国武将今川義元公が生誕五百年を迎えるに当たり、義元公の功績を正しく全国に向け発信していく。	今川義元公生誕五百年祭推進委員会へ負担金を支出し、今川義元公の顕彰事業を実施する。	①事務処理の円滑な実施 ②今川義元公生誕五百年祭推進委員会の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	5,425	—	4,993	0.5	0.0
歴史文化課	250	駿府城二の丸施設管理運営	H 27 -	市(直営・委託)	歴史的な名所の核の一つである駿府城公園の東御門・巽櫓など、3施設を平成28年度より一体管理し、利用を推進する。	①施設の管理(指定管理) ②イベントの実施	①歴史体験学習事業の実施回数 ②施設PR、新規顧客獲得事業の実施回数	①4回/年 ②2回/年	①4回/年 ②2回/年	一般	80,761	—	78,845	1.0	0.0

成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など				
⑩成果指標(アウトカム指標)						実績値	達成度	⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			当該年度の目標値の算出根拠					
		R1	H30	H29						
多文化共生のまちづくりの推進、3次総に掲げる「世界に輝く静岡」の実現につながる視点での提言書のとりまとめ支援	提言書提出	提言テーマ決定	提言書提出	提言テーマ決定	3次総が目指すまちづくりに向けた政策的課題解決と、多文化共生の実現に資する提言書のとりまとめに対する支援を目標値として設定した。	提言書提出	A	A	計画どおり、多文化共生協会を4回開催し、市長へ提言書を提出した。	外国人住民のみならず、広い視点で多文化共生の推進について審議するため、日本人の公募市民委員を追加するなど協議会組織の見直しを行う。
①国際理解講座の受講関係者満足度 ②多文化共生サポーター養成講座修了者数	①100% ②20人	①100% ②—	①100% ②—	①100% ②—	①受講関係者アンケートを実施し、直近3か年の実績値から設定した。 ②令和2年度新規事業として当初予定人数のサポーターを養成する目標設定とした。	①100% ②21人	①A ②S	A	①依頼者と事前調整し、要望に応じた内容を講師側から提案することで、目標を達成することができた。 ②定員20人に対して、36人から応募があり、選考した受講生21人全員が講座を修了することができた。	①従来のこども園等を対象とした国際理解講座に加えて、今後は講座実施先を拡充し、より多くの市民に対して講座を実施し、異文化への理解を深め共生社会への礎を築いていく。 ②修了生の活動支援と、次年度の受講生との交流支援を検討する。
①「多文化共生について興味を持つきっかけとなった」と回答した参加者の割合 ②受講生満足度 ③調査分析・情報共有	①90% ②98% ③実施	①95% ②— ③—	①88% ②98% ③—	①89% ②98% ③—	①直近3か年の実績の平均値から設定した。 ②H29、30年度の実績値から設定した。 ③調査を計画的に行い、分析結果を関係課と情報共有する目標とした。	①85% ②98% ③実施	①A ②A ③A	A	コロナ禍において、規模の縮小、内容変更など感染対策をとりながら事業を実施した。参加者からは、おおむね高い評価を得られた。	多様な国籍の外国人住民の参加、そして多世代に渡る住民へのアプローチが必要なことから、(一財)静岡市国際交流協会等と連携し事業企画・実施を行う。
相談完了率	95%	—	—	—	センターの運営が適切に行われ、関係部署への引継ぎなど、相談の対応が概ね完了している状態(95%)を目標値とした。	100%	S	A	1,391件の相談に対応することができた。年度途中から「3者通話」機能も取り入れ、外国人住民の相談手段を増やして利便性を向上した。	増加傾向にある外国人住民の状況や、相談内容等を分析し、ニーズに応じた相談体制を検討・充実させていく。令和3年度からはネパール語相談員を追加、拡充を図っていく。
自治体国際化協会が提供する事業メニューの活用件数	8件	8件	9件	8件	直近3か年の実績から、8件を目標値として設定した。	8件	A	A	「多言語情報ツールの活用」など8件のメニューを各課に周知し、活用してもらい、目標を達成した。	自治体国際化協会が提供するメニューを、積極的に庁内関係各課に提案するなどして、メニューの活用を促していく。
徳川みらい学会と共催で実施する講演会の入場者数のうち市が募集した入場者数	200人	316人	314人	238人	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設の入場者が半分に制限されたことから、前年度の募集人数(400人)の半分程度の入場者とした。	202人	A	A	徳川時代や本市の歴史に関して深い学識を有する有識者を講演者として、本市の歴史や歴史文化施設への関心を高めることが出来た。新型コロナウイルス感染拡大の状況のなか、感染防止の対策を行いながら開催した。その結果、目標値を超える人数が来場し、事業目的を達成できたと考える。	「歴史文化のまちづくり」をさらに推進するために、市民意識の醸成を図る取組が必要である。そのため、家康公や今川氏をはじめとした本市の豊かな歴史資源の研究やその意義の発信を行っている「徳川みらい学会」などの団体と連携するなどして積極的な情報発信を行い、市内の歴史資源への関心を高めていく。
今川義元公を「海道一の弓取り」「今川文化の保護者」とイメージする市民の割合	50%	36.8%	45.1%	—	平成30年度の数値から5%増加させることを目標とする。	59.6%	S	S	静岡駅前での「今川義元公像」の設置、今川シンポジウムの開催等により、今川義元公の功績を広く発信したことで、目標値を上回った。	令和5年春開館予定の歴史文化施設において、全国初の今川氏に関する常設展示を行い、今川氏の功績を全国に発信していく。
利用者満足度調査で満足と回答した人の割合	92%	90%	92%	86.9%	過去3か年うち、利用者満足度が最も高かった平成30年度の実績値を目標値とした。	85.5%	A	A	利用者満足度調査において、紅葉山庭園は90%、坤櫓及び東御門等は80%台と目標値には達しなかったが、3施設とも高い満足度を得ることができた。	令和2年度に東御門・巽櫓の展示改修を行い、令和3年4月に駿府城の歴史をわかりやすく紹介した展示にリニューアルオープンした。今後、3施設の利用促進の方策について検討し、令和5年春開館予定の歴史文化施設と連携していく。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費			⑨人工		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
歴史文化課	251	駿府城跡天守台野外展示事業	R 2 ~	市(直営・委託)	発掘調査成果を踏まえ、徳川家康と豊臣秀吉が関わったと考えられる本物の天守台の迫力を間近に感じることができる日本唯一の野外展示として、遺構の保存と活用を両立させた整備を行う。	①基本設計の実施 ②市民への説明及び意見聴取	①業務の実施 ②出前講座等による説明及び意見聴取	①実施 ②10回	①実施 ②9回	一般	25,000	—	3,355	1.5	0.0
歴史文化課	252	駿府城跡天守台発掘調査見える化事業	H 28 ~R 4	市(直営・委託)	駿府城の天守台跡地の整備方針決定に向けて学術的データを得るために実施する発掘調査を、歴史学習の場、観光資源としても活用し、駿府城及び天守台への関心を高める。	①常設見学ゾーン、展示棟の設置、運営 ②HP等による発掘情報の発信 ③発掘調査関連イベント実施	①HPによる発掘情報発信回数 ②シンポジウムの実施	①24回/年 ②1回/年	①45回/年 ②0回/年	一般	11,244	—	8,449	1.5	2.0
歴史文化課	253	歴史文化施設建設事業	H 27 ~R 4	市(直営・委託)	輝かしい静岡の歴史文化を保存・伝承し、その魅力を市内外へ発信する「歴史文化のまち」の中核となる歴史文化施設の建設に向けた取組を行う。	①建設工事 ②展示工事 ③資料調査・購入・複製製作 ④運営計画作成	施設建築物の建設及び展示工事の実施	実施	実施	一般	574,483	279,900	363,623	8.3	1.2
歴史文化課	254	歴史文化施設プレ事業	H 29 ~R 4	市(直営・委託)	歴史文化施設の開館に向けた市民の機運を高めるため、企画展の開催等を行う。	①企画展の開催 ②歴史観光の試行	①ブログ等による情報発信回数 ②企画展示での他館等との関連事業の開催	①30回/年 ②展示期間3回	①32回/年 ②5回	一般	5,219	—	4,770	0.2	0.8
文化財課	255	文化財補助金交付事業(静岡浅間神社)	H 26 ~R 11	補助等(交付先)	静岡浅間神社の重要文化財建造物を将来にわたり保護し、活用の促進を図る。	外部塗装の傷み等が進んでいる重要文化財の社殿群の保存修理に対し、補助金を交付する。	①現場見学会の実施回数 ②補助事業進捗管理 ③補助金交付事務	①4回 ②工程会議支援12回 ③3月交付確定	①4回実施 ②12回実施 ③完了	一般	29,400	-	29,400	0.3	0.0
文化財課	256	文化財補助金交付事業(久能山東照宮)	H 27 ~R 3	補助等(交付先)	久能山東照宮の国宝・重要文化財建造物等を将来にわたり保護し、活用の促進を図る。	老朽化により不具合が発生している防災施設の改修事業に対し、補助金を交付する。	①補助事業進捗管理 ②補助金交付事務 ③文化庁立会補助	①工程会議支援12回 ②3月交付確定 ③実施	①12回実施 ②完了 ③実施	一般	13,358	-	13,358	0.3	0.0
文化財課	257	文化財補助金交付事業	- ~	補助等(交付先)	静岡市の文化財を将来にわたり保護し、活用の促進を図る。	市内の文化財の保護や活用事業に対して補助金を交付する。	①補助事業進捗管理 ②補助金交付事務	①事業者との協議 ②交付確定	①事業者との協議の随時実施 ②完了	一般	29,067	-	26,532	1.0	0.4
文化財課	258	地域文化の担い手育成事業	H 25 ~	市(直営・委託)	市民に対し文化財の保存・伝承、活用への自発的な参加や行政との協働を促す。	①無形民俗文化財公開事業(大神楽祭)の実施 ②文化財サポーター入門講座の実施 ③地域伝統芸能全国大会事業の実施	①大神楽祭開催 ②入門講座受講者数 ③事業の実施	①開催 ②20名 ③実施	①中止 ②17名 ③実施	一般	18,433	-	3,437	1.5	0.0

成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など				
⑩成果指標(アウトカム指標)						実績値	達成度	⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			当該年度の目標値の算出根拠					
		R1	H30	H29						
実施設計に必要な基本設計の概要の進捗率	100%	—	—	—	次年度以降に実施設計を行うために、今年度は基本設計の概要を決めておく必要があるため、100%とした。	70%	B	A	新型コロナウイルスの感染症の影響により、専門家や事業者との検討及び市民意見聴取が予定通り実施できなかったことにより目標値に届かなかったが、基本設計の概要の作成は進めており、業務は適正に実施できたため。	令和2年度予算を令和3年度に繰越し、専門家及び市民意見の聴取も実施した上で、令和3年10月末を目標に基本設計の作成を進め、令和4年度から実施設計を実施するために必要な業務を完了させる。
歴史文化課HP「さきがけミュージアム」のアクセス件数	77,000件	70,888件	75,988件	69,999件	今年度はコロナ禍の外出自粛によりHPを見る機会がこれまでより増える想定し、過去3年間のうち最も多い件数を上回る件数とした。	64,534件	B	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、シンポジウムを開催できなかったことに加え、過去数年間の大きな関心を集める話題作りができなかったこともあり、目標値を達成することができなかった。	発掘作業(掘削作業)が終了したため、注目を大きく集めるような新たな発見が少なくなっている。HPへのアクセス方法の工夫、情報発信方法の工夫、新たな話題提供の工夫等を行ってHPなどで周知することで、駿府城及び天守台への理解と関心を高めていく。
施設建築物の建設及び展示工事の工事進捗率	16%	0%	—	—	令和5年春に開館させるためには、令和4年6月までに建設工事を終わらせる必要がある。工事の確実な進捗を成果としてとらえ、今年度末の進捗率の目標値を16%(3/18か月)とした。	16%	A	A	令和3年1月から工事を着手し、建設(建築・電気・衛生・空調・昇降機)及び展示工事について、各工事施工業者や設計事務所とともに工程管理や施工協議・調整を適切に行った。その結果、工事進捗率が目標値を達成した。	令和5年春の開館に向けて、令和4年6月までに建設及び展示工事を完了させるため、引き続き工程管理や施工協議・調整を行っていく。
歴史文化施設の建設を進めていることを知っている人の割合	50%	41%	—	—	令和元年度に2会場で開催した企画展示のアンケート結果平均が41%であったことを踏まえ、令和2年度は約1割増の50%を目標とする。	66%	S	S	新型コロナウイルス感染症の影響により、積極的な広報活動等を行えない期間があったが、歴史観光施行事業や連携事業を通して、市民・民間団体との関係づくりを進めるなど地道な情報発信が奏功し、目標値を上回った。	令和5年春の施設開館に向けて、機運醸成のための事業を継続していく。さらに多くの方に施設について知ってもらうため広報紙等への掲載等のPR活動を行う。
①静岡浅間神社保存修理現場見学会の参加者数 ②文化財補助金交付(=保存修理等の年度事業完了)	①36人 ②交付完了(1件)	①35人 ②交付完了(1件)	①39人 ②交付完了(1件)	①80人 交付完了(1件)	①文化財保存修理事業を静岡浅間神社の文化財をPRする機会と捉え、修理現場の見学会について、定員の9割を目標値とした。 ②予算・工程調整、関係機関協議、市から国・県への取次ぎ(進達)等を経て、国・県・市の補助金交付をもって、文化財保存修理の年度事業が完了することを目標とした。	①40人 ②交付完了(1件)	①S ②A	A	①目標値を達成することができた。 ②毎月の工程会議で進捗状況を確認し、計画どおり滞滞なく、補助金を交付した。	①新型コロナウイルス感染症防止のため、見学会の開催については慎重に判断し、開催する場合は十分な対策が必要となる。 ②新型コロナウイルス感染症拡大により、事業に遅れ等の影響が出る懸念。感染症対策の徹底を呼びかける。
文化財補助金交付(=保存修理等の年度事業完了)	交付完了(1件)	交付完了(1件)	交付完了(1件)	交付完了(1件)	予算・工程調整、関係機関協議、市から国・県への取次ぎ(進達)等を経て、国・県・市の補助金交付をもって、文化財保存修理の年度事業が完了することを目標とした。	交付完了(1件)	A	A	毎月の工程会議で進捗状況を確認し、事業者や関係機関との調整を行い補助金を交付した。	新型コロナウイルス感染症拡大により、事業に遅れ等の影響が出る懸念。感染症対策の徹底を呼びかける。
文化財補助金交付(=保存修理等の年度事業完了)	交付完了(29件)	交付完了(33件)	交付完了(31件)	交付完了(29件)	予算・工程調整、関係機関協議、市から国・県への取次ぎ(進達)等を経て、国・県・市の補助金交付をもって、文化財保存修理の年度事業が完了することを目標とした。	交付完了(31件)	A	A	補助事業者の進捗状況や新型コロナウイルス感染症拡大の影響を確認し、補助金を交付した。	市内の文化財の保存状態や管理状況を見極めつつ、補助金の交付先を適切に選定する。
①大神楽祭来場者数 ②文化財サポーター稼働率 ③WEB公開事業参加団体数	①1,000人 ②30% ③5団体	①2,000人 ②52% ③—	①1,000人 ②61% ③—	①2,500人 ②69% ③—	①新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から来場者を制限するため、前年度の1/2を目標値とした。 ②新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、過去3年平均60%の1/2程度を目標値とした。 ③R2年度のWEB事業参加予定団体数を目標とした。(単年度事業)	①— ②39% ③6団体	①— ②S ③S	A	①新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。 ②新型コロナウイルス感染症拡大の影響により参加できる事業が減少したため過年度よりも低い稼働率となったものの、実施した事業については目標を上回るサポーターの参加を得ることができた。 ③当初予定を上回る参加団体数となった。	①新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえて開催の検討、早期の判断をする必要がある。 ②文化財サポーターの活動機会を確保する必要がある。 ③課題なし

①所属名	事業概要(全体)					活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
	No.	②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費			⑨人工		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
文化財課	259	一般文化財保護事業	-	市(直営・委託)	文化財の調査や保存・顕彰、活用等を行い、文化財保護意識の醸成を図り、貴重な文化財を後世に引継ぐ。	①文化財保護審議会の運営 ②駿府九十六ヶ町町名碑の設置 ③文化財特別公開の実施	①文化財保護審議会の実施 ②町名碑設置数 ③特別公開事業の実施	①2回 ②4基 ③実施	①2回 ②4基 ③実施	一般	7,871	-	6,046	1.2	0.3
文化財課	260	文化財管理事業	-	市(直営・委託)	本市所管の文化財の管理、活用等を行い、貴重な文化財を後世に引継ぐ。	①文化財建築物、史跡名勝等の管理 ②旧マッケンジー住宅の保存・活用の検討	①管理業務等の委託状況 ②民間事業者の意見聴取	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	48,833	-	46,644	1.2	0.0
文化財課	261	文化財資料館管理運営事業	S 50	市(直営・委託)	文化財的価値のある資料を保管すると共に市民文化の向上及び文化財保護思想の普及を図る。	資料の収集・受託及び保管・展示並びに常設展・企画展を実施する。	①管理業務等の委託状況 ②企画展の開催 ③運営委員会の実施	①実施 ②3回 ③2回	①実施 ②3回 ③2回	一般	15,684	-	15,191	0.5	0.0
文化財課	262	臨済寺調査事業	H 30	市(直営)	歴史文化施設の展示テーマの一つである今川氏にゆかりの臨済寺調査を実施し、当該施設等での活用を図る。	臨済寺の古文書調査を実施し、報告書を作成する。	調査日数	31日	31日	一般	1,491	-	1,485	1.0	0.3
文化財課	263	史跡片山廃寺跡保存整備事業	H 22	市(直営)	史跡指定地内の48%を占める民有地での開発等から史跡を守り、整備に向け情報を収集する。	①民有地を順次公有地化する。 ②地下遺構を把握するための調査(発掘調査)を実施する。 ③発掘調査の成果及び史跡整備の方向を報告する。	①用地買収の契約件数 ②調査件数 ③整備検討委員会の開催	①1件 ②1件 ③1回	①1件 ②1件 ③1回	一般	111,220	-	110,516	1.5	0.2
文化財課	264	史跡小島陣屋跡保存整備事業	H 24	市(直営)	江戸時代の幕藩体制の一環を示す小島陣屋跡を歴史公園として整備し公開活用を図る。	①史跡整備に向けた設計を実施する。 ②史跡整備に向けた調査(発掘調査)を実施する。 ③発掘調査の成果及び史跡整備の方向を報告する。	①設計件数 ②調査件数 ③整備委員会の開催	①1件 ②1件 ③2回	①0件 ②1件 ③2回	一般	19,666	7,535	19,402	1.5	0.3
文化財課	265	埋蔵文化財発掘調査事業	-	市(直営・委託)	民間開発に伴う発掘調査及び市内の埋蔵文化財包蔵地内外における開発に対応する。	①市内の埋蔵文化財包蔵地内外の試掘・確認調査を実施する。 ②民間開発に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施する。	①試掘確認調査件数 ②発掘調査件数	①②依頼のあった件数	①32件 ②6件	一般	171,825	-	145,776	3.0	0.5
文化財課	266	埋蔵文化財センター管理運営事業	H 16	市(直営)	埋蔵文化財センターの円滑な管理運営と共に出土遺物の調査整理と展示公開を行い、市内の埋蔵文化財について顕彰する。	①発掘調査した遺跡の整理作業と出土遺物の保管・管理・展示を行う。 ②整理作業の終了した遺物の展示や遺跡の紹介を行う。	①企画展の開催回数 ②来訪者数	①4回 ②800人	①4回 ②893人	一般	7,280	-	6,549	1.0	6.0
文化財課	267	三保松原文化創造センター管理運営	H 31	市(直営・委託)	世界文化遺産「三保松原」の魅力と価値を国内外へ発信するとともに、三保松原と他の文化や芸術と融合させた松原文化を創造していく。	○建物の保守、管理 ○展示の保守、管理 ○企画展の開催	①年間を通しての開館 ②年間を通しての公開 ③企画展の開催回数	①実施 ※ ②実施 ※ ③4回 ※コロナによる休館期間あり	①実施 ②実施 ③4回	一般	39,998	-	30,891	1.5	1.0

成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など				
⑩成果指標(アウトカム指標)						実績値	達成度	⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			当該年度の目標値の算出根拠					
		R1	H30	H29						
①文化財指定(諮問・答申件数) ②町名碑イベントの参加者数 ③特別公開箇所数	①答申1件 ②45人 ③10か所	①諮問2件、答申1件 ②87人 ③11か所	①答申1件 ②66人 ③10か所	①諮問2件 ②1 ③9か所	①指定候補物件の状況を考慮して文化財保護審議会への諮問・答申可能数を目標とした。 ②町名碑を活用したウォーキングイベントの募集定員50人に当日キャンセル分を考慮して目標とした。 ③過去3か年の平均公開箇所数を目標とした。	①1件 ②50人 ③10か所	①A ②S ③A	A	①計画どおり、文化財指定に関する1件の答申を得た。 ②募集定員どおりの参加者となった。 ③各文化財所有者の協力を得て、目標どおりに10か所で公開を行った。	①文化財の保護はもちろんのこと、活用にも目を向けて取り組む必要があるため、文化財保護審議会から、それを踏まえた助言を得ていく。 ②町名碑の周知と活用を行う必要がある。 ③より多くの文化財所有者に特別公開を行ってもらうため、随時、公開の呼びかけを行う。
入場者数(旧エンバーソン住宅、旧マッケンジー住宅、旧五十嵐邸、お休み処、小池邸、次郎長生家)	20,000人	39,507人	45,719人	-	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、前年度の入場者数の1/2程度を目標値とした。	19,225人	A	A	新型コロナウイルス感染症拡大の影響による一時休館、入場者の減少があり、過去の実績は下回ったものの、概ね当初の目標を達成した。	各施設で新型コロナウイルス感染症防止策をとり、来館者の安心・安全を確保することが必要となる。
文化財資料館入館者数	6,000人	12,974人	10,877人	14,253人	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、前年度の入場者数の1/2程度を目標値とした。	7,423人	S	A	新型コロナウイルス感染症拡大の影響による一時休館、入館者の減少があり、過去の実績は下回ったものの、3回の企画展を実施するなど、市民が文化財に触れる機会を提供し、目標を達成することができた。	文化財資料館は令和3年をもって閉館する予定であり、その役割は、歴史文化施設に引き継いでいく。
①古文書読解件数 ②調査結果まとめ	①1,500件 ②報告書完成	①2,500件 ②-	①1,608件 ②-	-	①調査対象である古文書の読解件数を目標値とした。 ②調査最終年度であるため、調査結果をまとめた報告書の作成を目標とした。	①1,900件 ②報告書完成	①S ②A	A	臨済寺文書全点の読解、整理を終了し、臨済寺に返却した。調査結果は、本文編・目録編に分けて報告書としてまとめた。(300部作成)	本調査にて明らかになったことを市民に公開していく必要があるため、所有者の協力も得つつ公開事業等を行う。
今年度事業計画達成率	100%	75%	100%	100%	史跡指定地の保護(用地買上げ1件)及び地下遺構を把握するための調査、整備検討委員会の開催を実施する予定であり、その事業達成100%を目標値として設定した。	100%	A	A	用地買収の契約1件、調査件数1件、整備検討委員会の開催1回と全ての項目について目標を達成した。	公有地化を進めていくと同時に、史跡としての活用方法について検討する必要がある。まずは、現在の「史跡片山庵寺跡」から「駿河国分寺」への名称変更に向けて文化庁との協議を行っていく。
今年度事業計画達成率	100%	100%	100%	100%	整備のための調査の実施及び史跡整備の設計、整備委員会の開催を実施する予定であり、その事業計画の達成100%を目標値として設定した。	75%	B	B	実施設計の発注前に、関係法令(かけ条例・建築基準法)への対応が必要となったため、令和2年度に実施予定の御殿書院移築復原実施設計が令和3年度に繰り越しとなった。	整備に当たっての法令適合と事業費の増大から当初予定の令和4年度整備完了が困難である。スケジュール・事業費の見直しを行ったうえで、整備完了に向けて関係機関との連携強化を図っていく。
試掘確認調査並びに発掘調査達成率	100%	100%	100%	100%	毎年試掘確認調査並びに発掘調査の依頼が合計で50件程度寄せられている。民間開発における調査依頼に迅速に対応するため、年度内実施の依頼のあった調査達成率100%を目標値として設定した。	100%	A	A	公共事業、民間開発等のスケジュールに対応し、事業者と事前協議を行ったうえで、年度内に実施すべき調査を全て実施した。	開発事業が円滑に進められるよう、開発者と事前協議を綿密に行ううえで、事前の許認可及び発掘調査を迅速に行う必要がある。また、市内の遺跡の調査履歴を係内で共有し、開発者への必要な指導を正確に実施していく。
整理事業をする遺物の点数	500点	5,794点	2,220点	1,436点	施設の設置の本来目的である、発掘調査により出土した遺物の整理事業を成果指標とした。年度当初に整理事業を実施する予定であった遺物実測数を目標値として設定した。(H29～R1は遺物合計数量)	481点	A	A	計画していた駿府城跡・駿府城内遺跡(歴史施設地点・城内中学校地点)の遺物481点の実測作業が完了した。 また、発掘調査の成果を中心とした展示を3回、井上馨展を1回実施した。	発掘調査出土品および図面資料を活用できる状態に整理を進める。整理が完了した遺物を適切に保管していくとともに、定期的に市民に公開していく。
来館者数	270,000人	665,744人	48,304人	72,456人	本来の目標値は、令和元年度実績から毎年1万人の増加(67万人)であるが、新型コロナウイルス感染症の影響から、前年度の40%維持を目標値とした。	322,643人	S	A	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館した期間を除き、適切に施設及び展示資料の保守管理を行い開館した。様々な観点から三保松原に関する企画展を年4回開催した。	来場者の安心・安全な見学のため、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底する。運営するサイトやSNSを効果的に活用し、施設や事業に対するさらなる周知を図る。

①所属名	事業概要(全体)					活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
	No.	②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費			⑨人工		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
文化財課	268	三保松原保全活用事業(ソフト)	H 25 -	市(直営・委託)	三保松原が富士山世界文化遺産の構成資産となり、三保松原の保全と活用の調和がとれた事業の調整と推進を図る。	○三保松原の保全 ○三保松原の活用 ○三保松原の情報発信	①文化財保護法に基づく手続き ②保全活用計画登載事業の管理 ③SNS開設	①実施 ②実施 ③実施	①実施 ②実施 ③実施	一般	129,016	-	119,294	1.5	1.0
文化財課	269	三保松原保全活用事業(ハード)	H 29 -	市(直営・委託)	世界文化遺産プロバティエリアの周辺を公有地化し、三保由来のマツ苗を生産する母樹園や苗畑を整備するとともに、マツを植樹することにより、失われた松原の再生及び道路環境からプロバティエリアを保護する。	○契約締結(5月) ○移転登記(10月) ○支払い(1月) ○補助金実績報告(3月) ○次年度買収地地権者への訪問(3月)	①契約締結件数 ②移転登記件数	①土地購入9件、物件補償8件 ②土地9件 ①土地購入9件、物件補償8件 ②土地9件	一般	44,396	-	41,019	1.0	0.0	
文化財課	270	登呂博物館管理運営業務	S 47 -	市(直営・委託)	登呂遺跡の価値を市民に発信し、地域の歴史や文化について関心を深めてもらう。	登呂遺跡からの出土品を中心に幅広い分野の展示を行うとともに、講座や講演会等教育普及事業を実施する。 静岡市博物館条例に基づき、博物館協議会委員による会議を開催する。	①委託件数 ②特別展・企画展回数 ③各種講演会・講座の開催回数 ④協議会開催回数	①21件 ②4回 ③25回 ④2回	①22件 ②5回 ③28回 ④2回	一般	61,217	-	53,947	5.0	8.0
文化財課	271	「登呂ムラ」発信事業(登呂博物館)	H 22 -	市(直営)	弥生時代の生活体験を通じ、登呂遺跡の見学者に遺跡の魅力をより深く理解してもらう。	復元した史跡の中で、見学者が弥生時代の生活体験学習を行う。	登呂遺跡内での体験学習指導の日数	261日	264日	一般	30	-	25	1.0	4.0
まちは劇場推進課	272	SHIZUOKA PICNIC GARDEN 補助金	H 30 -	補助等(交付先)	本市の豊富な地場産品を観光資源として市内外に発信し、地域経済の活性化及び交流人口の増加を目指す。	「SHIZUOKA PICNIC GARDEN」の主催者である実行委員会への補助金交付す。	①補助金交付事務の適正な実施 ②運営補助	①実施 ②広報活動の円滑な運営支援	①実施 ②実施	一般	18,000	0	18,000	0.1	0.0
まちは劇場推進課	273	人の集まる街づくり推進事業	H 15 -	市(直営)	周辺地域、商店街等のにぎわい創出を図り、人の集まる街づくり及び地域振興に寄与する。	イベント、広報宣伝等を行う者に対して、青葉イベント広場を貸し出す。	青葉イベント広場の適正な貸出	実施	実施	一般	601	0	464	0.1	0.2
まちは劇場推進課	274	「まちは劇場」推進事業 ストレンジ シード開催事業	H 28 -	市(委託)	市街地において、演劇、ダンスを中心とした文化芸術イベントを開催することで、「まちは劇場」を推進し、まちな存在感を高め、交流人口の増加に資する。	駿府城公園及び周辺市街地において、演劇、ダンスを中心とした文化芸術イベントを開催	①業務委託契約の締結 ②業務完了報告書の確認、検収	①1件 ②1件	①1件 ②1件	一般	27,720	0	27,500	0.4	0.0

成果(アウトカム)					評価及び次年度以降に向けた課題・改善など					
⑩成果指標(アウトカム指標)					実績値	達成度	⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容	
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値								当該年度の目標値の算出根拠
		R1	H30	H29						
①マツ材線虫病による松枯れ ②保全ボランティア参加者数	①1本/ha以下の維持 ②1千人	①0.77本/ha ②3,989人	①0.65本/ha ②-	①0.97本/ha ②-	①三保松原の松林保全技術会議の「三保松原の松林保全に向けた提言書」における目標値 ②本来の目標値は、令和元年度から、毎年1,500人の増加(4,500人)であるが、新型コロナウイルス感染症の影響から前年度の25%維持とした。	①0.59本/ha ②1,256人	①S ②S	A	①令和元年度に引き続き、ドローンを利用したマツ材線虫病防除薬剤散布を試行し、目標値を平成28年度以降継続達成できた。 ②新型コロナウイルス感染症拡大等の影響があり、大規模のボランティアイベントは中止となったが、小規模な活動は継続して実施された。	①効率的かつ安全に薬剤散布ができるため、ドローンの活用を本格化していく。 ②みはしるべで行うイベントや保全活動について、公式SNS等を活用して積極的なPRを行うことで、保全ボランティア参加者の増加につなげる。
プロパティエリア周辺の公有地化	Bブロック(羽衣海岸線陸側部分)の購入完了及びAブロックの購入	Bブロック(羽衣海岸線海側部分)の1415㎡購入	Bブロック371㎡購入	Bブロック1,271㎡購入	3次総実施計画に掲げる用地購入計画による。	Bブロック(羽衣海岸線陸側部分)の購入完了及びAブロックの購入	A	A	計画通りに契約を締結、移転登記を行い、Bブロックについて公有地化が完了した。	残りの用地1件(Aブロック)を購入するため、道路部局と連携し土地所有者と交渉を進める。 Bブロックに三保由来のマツ苗を生産する母樹園や苗畑を整備する。
博物館の入館者数	72,000人	169,568人	167,796人	167,591人	リニューアルオープン後、減少傾向が続く入館者数を増加に転じさせH27までの18万人台を回復することを目標として設定(180,000人)したが、コロナ禍による下方修正として、目標値の4割維持とした。	97,168人	S	A	コロナ禍による下方修正として、目標値(180,000人)の4割維持としていたが、6月以降は休館することなく、また感染対策を行い受入態勢を整えたうえで再開したこともあり、下方修正した目標値の大幅を超える数値となった。	今後の新型コロナウイルス感染症拡大状況による博物館の閉館が懸念されるが、国や県の指針を注視しつつ、感染対策の実施を継続していく。
遺跡案内、体験学習者数	62,440人	148,659人	153,235人	134,642人	前年度の5%増を目標値として設定(156,092人)し、コロナ禍による下方修正として、目標値の4割維持とした。	93,769人	S	A	コロナ禍による下方修正として、目標値(158,092人)の4割維持としていたが、6月以降は休館することなく、また感染対策を行い受入態勢を整えたうえで再開したこともあり、下方修正した目標値を大幅を超える数値となった。	今後の新型コロナウイルス感染症拡大状況による博物館の閉館に伴う遺跡案内や体験学習の中止が懸念されるが、感染対策の実施を継続していく。
イベント入込客数(主催者発表数)	15,000人	284,090人	100,000人	-	コロナ禍における催物の開催制限等に基づいた目標値とした。	17,000人	S	A	新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を講じ、予定通りの開催ができた。また、同時開催イベントとの連携により、駿府城公園全体を使ったイベントとすることで、目標を上回る入込客数を達成するとともに、本市の多彩な魅力を発信することはできた。しかし、例年と比較すると入込客数は減少しているため、評価はAとした。	効果的な情報発信をするとともに、同時開催のイベントと連携するなど、交流人口の増加に向け、しずおかフェア実行委員会を支援する。
貸出稼働率	10%	44%	44%	48%	過去の貸出稼働率の平均値を目標値としてきたが、令和2年度については、コロナ禍(令和2年1月～3月)における貸出状況を鑑み、目標値を設定した。	12%	S	A	新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、申込は減少、キャンセルも余儀なくされたが、感染拡大防止策を講じ、実施可能なイベントについては貸出を行い、コロナ禍においても目標を達成することができた。しかし、例年と比較すると貸出稼働率は減少しているため、評価をAとした。	コロナ禍におけるイベントの開催可否など難しい判断を迫られる状況が続くと予想されるが、主催者の安全対策を確認したうえで実施可能と判断したイベントについて貸出業務を進めていく。
「ストレンジシード」来場者数	10,000人	17,852人	9,925人	10,891人	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止策として各会場に入場制限を設けるとともに、オンライン配信も同時に行うため、各会場定員と配信視聴者の合計を目標値として設定した。	11,572人(うち配信視聴者8,988人)	S	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していた5月開催は延期し、感染拡大防止策を講じて9月に開催した。会場参加者は前年よりも減少し、交流人口の増加という目的は果たすことができなかったが、オンラインでの配信を同時に行うことで、コロナ禍においても文化芸術イベントを身近なものとし、「まちが劇場」の取組を推進することができたため、評価をAとした。	市民の関心を深め、更なる来場者数の増加を図るため、体験型や親子向けプログラムの導入など、今後のターゲット設定について検討していく。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費			⑨人工		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
まちは劇場推進課	275	「まちは劇場」推進事業 東静岡アートプロジェクト事業	H 28 -	市 (委託)	東静岡市有地を新たな文化拠点とする市民参画プロジェクトを展開することにより、「まちは劇場」を推進し、まちの存在感を高め、交流人口の増加に資する。	市内美術館等と連携し、東静岡市有地において、野外での展覧会等のアートイベントを開催	①業務委託契約の締結 ②業務完了報告書の確認、検収	①1件 ②1件	①1件 ②1件	一般	15,000	0	14,993	0.3	0.0
まちは劇場推進課	276	「まちは劇場」推進事業 まちは劇場コンサート事業	H 28 -	市 (委託)	オーケストラと連携し、学校訪問コンサートやオープンスペースでのコンサートを行い、文化を通じてまちを活性化させることにより、「まちは劇場」を推進する。	「学校訪問コンサート」、「親子コンサート」、「まちかどコンサート」、「子ども園訪問コンサート」を開催	①委託契約締結件数 ②完了報告書確認件数 ③事務処理の円滑な実施	①2件 ②13件 ③実施	①2件 ②13件 ③実施	一般	34,700	0	34,667	0.0	0.6
まちは劇場推進課	277	「まちは劇場」推進事業 市民参加型舞台公演事業	H 30 -	市 (委託)	あらゆる人々が文化芸術活動に参加できる環境の整備に取組み、本市のプレゼンスの向上及び「市民が主役」のまちは劇場プロジェクトを推進する。	演劇ワークショップ及び発表公演の開催 市民参加型バリアフリー公演の開催	①業務委託契約の締結 ②業務完了報告書の確認、検収	①1件 ②1件	①1件 ②1件	一般	12,000	0	9,270	0.3	0.0
まちは劇場推進課	278	ふじのくにせかい演劇祭開催事業補助金	H 30 -	補助等 (交付先)	国内有数の演劇祭である「ふじのくにせかい演劇祭」の開催を支援することで、本市5大構想のひとつであるまちは劇場の推進を図る。	「ふじのくにせかい演劇祭」の主催者である(公財)静岡県舞台芸術センターへの補助金交付	補助金交付事務の適正な実施	実施	実施	一般	46,000	0	38,000	0.1	0.0
まちは劇場推進課	279	フェスティバルブランディング事業	H 30 -	市 (委託)	市内で開催される複数のフェスティバルを包括し、フェスティバルが都市のシンボルとなるためのブランド形成を行うことで、国際発信力の強化、インバウンドの増加を図る。コロナ禍においては、アフターコロナにおける世界への発信再開を見据えたインナーブランディングに注力する。	本市の魅力の世界へ発信する基盤を整えるため、市民と共に取り組む「まちは劇場」を推進するインナーブランディングを実施	①業務委託契約の締結 ②業務完了報告書の確認、検収	①2件 ②2件	①2件 ②2件	一般	15,000	0	11,083	0.8	0.0
まちは劇場推進課	280	フェスティバル評価システム構築事業	H 30 -	市 (委託)	本市で開催されるフェスティバルが、本市にもたらす経済的・社会的影響や効果を分析し、フェスティバルの社会的意義を明らかにするための評価システムを構築する。	ロジックモデルの見直しを実施するとともに、経済的・社会的・文化的効果を検証するための拡大調査に向けた準備を実施	①業務委託契約の締結 ②業務完了報告書の確認、検収	①1件 ②1件	①1件 ②1件	一般	12,917	0	6,026	0.3	0.0

成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など				
⑩成果指標(アウトカム指標)						実績値	達成度	⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			当該年度の目標値の算出根拠					
		R1	H30	H29						
イベント来場者数	25,000人	27,671人	29,586人	28,441人	過去実績に基づき、屋外イベントとしてのリスク(雨天等)を鑑みた目標値とした。	42,161人	S	S	新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を講じ、予定通り開催できた。また事業の最終年度として、イベントを含む多彩なアーティストを招くことで、コロナ禍でありながらも来場者数が目標値を大幅に上回り、交流人口の増加に資することができたため、評価をSとした。	令和2年度で事業終了となるが、当該地における、アートイベントの実施については、今後も実行委員会と連携していく。
①学校訪問コンサート実施校数 ②親子コンサート応募人数 ③まちかどコンサート来場者数 ④子ども園訪問コンサート実施園数(新規)	①6校 ②3,800人 ③3,000人 ④24園	①14校 ②8,614人 ③6,289人 ④—	①14校 ②7,984人 ③6,865人 ④—	①14校 ②3,617人 ③6,133人 ④—	①新型コロナウイルス感染症の影響による学校の受入体制の状況を鑑み、目標値を6校とした。 ②実施するホールの定員数を超える応募人数を目標値として設定した。(静文:1,170人、マリナート:1,513人、AOI:543人×2回) ③新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、1回当たりの来場者数60人×48回=2,880人を予想値として算出、3,000人を目標値として設定した。 ④新型コロナウイルス感染症の影響による子ども園の受入体制の状況を鑑み、目標値を24園とした。	①6校 ②6,734人 ③4,617人 ④23園	①A ②S ③S ④A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、子ども園訪問コンサートの実施園数が減少したことで目標値に届かなかったが、その影響を除けば目標値を達成することができた。コロナ禍においても、多くの子育て中の親子や子供たちにプロの生演奏を気軽に鑑賞できる場を提供するとともに、文化を通じたまちの賑わい創出に資することができたため、評価をAとした。	まちかどコンサートの来場客が固定化しつつあるため、新たな来場者の獲得に向けて、開催場所や周知の方法を検討していく。
①演劇ワークショップ開催回数 ②市民参加型/リアフリー公演の開催回数	①30回 ②1回	①45回 ②1回	①36回 ②—	—	新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、演劇ワークショップ開催回数については、前年度比2/3の30回、成果発表の機会としての公演開催回数は、前年度と同じ1回を目標値として設定した。	①25回 ②1回	①B ②A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、参加人数やワークショップ回数等の規模を縮小したが、参加者の安全に配慮しながら、可能な範囲でワークショップを開催することができた。 令和2年度の目玉事業として企画していた健常者、障がい者が共演する大型舞台公演(市民参加型/リアフリー公演)は次年度に延期したが、ワークショップの成果をもとに参加者がその成果を発表する舞台公演を開催し、コロナ禍においても市民参加型の文化芸術活動を推進することができたため、評価をAとした。	令和2年度に実施できなかった大型舞台公演(市民参加型/リアフリー公演)の開催に向けて、新型コロナウイルス感染症の状況にも配慮しつつ、安全対策を施した上で、ワークショップや稽古を進めていく。
イベント入込客数(主催者発表表)	累計視聴回数48,000回	3,423人	3,218人	—	開催会場である静岡芸術劇場及び舞台芸術公園等の定員数を目標値として設定してきたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、公演方法を動画配信に変更したため、期間4/25～5/6の12日間で1日平均4,000回のアクセスを目標とした。	累計視聴回数56,088回	S	S	世界で活躍する俳優陣が手掛けた49にのぼる様々なコンテンツを連日動画配信したことにより、視聴回数が目標値を大幅に上回るとともに、県内・海外からもアクセスがあり、新たな層へのアプローチをすることができたため、評価をSとした。	「フェスティバル・シティ」を目指す本市の「春フェス」の核となるイベントとして、発信力をさらに磨き上げていく必要があるため、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みつつ、海外プロモーションにも取り組んでいく。
①市民を巻き込むコミュニティツールの立ち上げ ②「まち劇」の意義を普及するイベントの開催	①1件 ②1回	—	—	—	令和3年度から本格実施する市民に向けたインナーブランディングの基盤を整える必要があるため、ツールの整備とスタートアップのための発信事業の実施を目標とした。	①1件 ②1回	①A ②A	A	新型コロナウイルス感染症終息後の新たな時代における観光需要の回復期を見据え、プロモーション素材を制作した。また、「まち劇場」の目指す姿を市民に周知するトークイベントの実施などブランディングを推進していく基盤を整えることができたため、評価をAとした。	本市の認知度向上及び交流人口の増加に資するプロモーションを戦略的に展開するため、令和2年度に制作したプロモーション素材等をもとに、WebサイトやSNSなど各種メディアを活用し、市民や国内外からの来訪者とのコミュニティづくりを進めていく。
令和3年度に実施する拡大調査の調査方法(見直し)の決定	決定	決定	—	—	フェスティバルが本市にもたらす経済的・社会的・文化的効果を検証するための拡大調査を令和2年度から3年度に延期実施することになり、新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮して、調査方法の見直しを実施するため。	決定	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に予定していた拡大調査は令和3年度に延期したが、ポストコロナ時代を踏まえたロジックモデルの見直しを行った。それに伴い、延期した拡大調査の調査内容について、さらに充実させることができたため、評価をAとした。	令和4年度に評価システム構築事業の最終年度を迎えるため、令和3年度には拡大調査を確実に実施し、成果指標の初期値を把握する必要がある。

①所属名	事業概要(全体)					活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
	No.	②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費			⑨人工		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
まちは劇場推進課	281	「まちは劇場」推進事業 まち劇スポット事業	H 30 -	市 (直営)	都市全体が劇場のようにいつも華やかで活気に溢れた魅力的なまちを目指し、地域経済の活性化および交流人口の増加を図る。	「まち」の様々な空間において、様々なジャンルの文化に触れる機会、アーティストと市民が出会う機会を数多く提供するために、パフォーマンス環境を整備	①スポット指定箇所数 ②アーティスト審査会の実施	①10箇所 ②1回	①10箇所 ②0回	一般	1,278	0	453	1.0	0.0
文化振興課	282	静岡市民文化会館管理運営事業	S 53 -	市 (直営・委託)	市民に文化活動の場と多彩な芸術文化の鑑賞機会を提供することにより、市民の芸術文化の向上を図る。	指定管理者制度による館の運営(受付・案内・利用料徴収・設備の管理・事業等)修繕、大規模改修など。	①指定管理業務協定締結件数 ②指定管理業務のモニタリング回数 ③指定管理業務報確認・検査件数(年報1件、月報12件)	①1件 ②2回 ③13件	①1件 ②2回 ③13件	一般	274,119	-	271,641	1.0	0.0
文化振興課	283	静岡市民文化会館前駐車場管理運営事業	S 53 -	市 (直営・委託)	静岡市民文化会館、静岡市中央体育館及び静岡市青少年研修センターに自動車であら館する方の駐車場の用に供するため、駐車場を運営する。	指定管理者制度による駐車場の運営(入庫・精算・出庫管理、場内管理等)、修繕など。	①指定管理業務協定締結件数 ②指定管理業務のモニタリング実施回数 ③指定管理業務報確認・検査件数(年報1件、月報12件)	①1件 ②2回 ③13件	①1件 ②2回 ③13件	一般	1,224	-	0	0.5	0.0
文化振興課	284	静岡市民文化会館再整備事業	R 1 -	市 (直営)	開館後40年以上経過した静岡市民文化会館について、施設及び設備の更新並びに、静岡都心の芸術文化の拠点になるとともに、市内外から多くの人を惹きつけ、周辺エリアの回遊性を高め、経済波及効果をもたらす施設となるよう、再整備を図る。	再整備方針、再整備基本構想・基本計画の策定 PPP導入可能性調査	①基本構想・基本計画策定 ②PPP導入可能性調査の実施 ③ワークショップ開催回数	①策定完了 ②調査完了 ③3回	①未策定 ②未完了 ③3回	一般	30,000	-	0	2.5	0.0
文化振興課	285	清水文化会館管理運営事業	H 24 ~ R 8	市 (直営・委託)	市民に文化活動の場と芸術文化の鑑賞機会を提供することにより、市民の芸術文化の向上を図るとともに、文化を核とした清水都心の賑わい創出を図る。	PFI・指定管理者制度(利用料金制)による館の維持管理・運営(設備の維持管理、利用受付・貸出・案内・自主事業等)	①通知書送付件数 ②委託業務契約の締結件数(モニタリング支援) ③モニタリング実施回数 ④指定管理業務報告書、財務に関する報告書・検査件数	①1件 ②1件 ③3回 ④15件(維持管理・運営)1件(財務)	①2件 ②1件 ③3回 ④15件(維持管理・運営)1件(財務)	一般	305,740	-	303,177	1.0	0.0
文化振興課	286	文化振興事業の実施経費	H 5 -	市 (委託)	文化振興施策の一環として、様々な文化事業を効果的に実施し、本市の文化振興を図る。	「Hotひといきコンサート」「静岡市民芸術発表会」「オーケストラ鑑賞事業」「伝統文化ワークショップ」等の開催、「静岡市民芸」の発行(文化活動委託)、静岡市芸術文化奨励賞の交付等	①委託契約締結件数 ②完了報告書確認件数 ③検収件数	①1件 ②12件 ③12件	①1件 ②12件 ③12件	一般	27,058	-	27,058	0.6	0.0
文化振興課	287	静岡市民文化祭企画運営業務	H 15 -	市 (委託)	広く市民に創作発表および鑑賞の機会を提供することにより、芸術文化を一般に普及し市民文化向上を図る。	「静岡市民文化祭」の実施、委託契約	①委託契約締結件数 ②完了報告書確認件数 ③事務処理の円滑な実施	①1件 ②1件 ③実施	①1件 ②1件 ③実施	一般	3,345	-	3,345	0.5	0.0

成果(アウトカム)					評価及び次年度以降に向けた課題・改善など					
⑩成果指標(アウトカム指標)					実績値	達成度	⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容	
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値								当該年度の目標値の算出根拠
		R1	H30	H29						
①ライセンス保有者数 ②まち劇スポット稼働回数(延べ)	①65組 ②80回	①65組80人 ②371回	①52人 ②43回	-	①登録パフォーマー組数(65組)の維持を目標とする。 ②新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を考慮し、20回/月×4月=80回を目標値とした。	①66組86人 ②25回	①A ②C	A	年度当初よりまち劇スポットでの活動を休止していたが、11月末より感染症対策を講じ3箇所まで再開した。コロナ禍ではあるがパフォーマーの活動が再開され、四半期の実績値としては概ね目標(20回)を達成し、魅力的なまちの創造に資することができたため、評価をAとした。	休止中のまち劇スポットがあるため、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みつつ、順次再開させ、パフォーマンスアーツにとらわれないこと、様々なジャンルの文化に触れる機会を創出していく。
①年間利用者数 ②年間施設利用率	①52万人 ②70%	①442,609人 ②62.6%	①501,296人 ②68.8%	①479,677人 ②71.7%	過去の実績をもとに指定管理者と調整の上、協定締結時の仕様書で設定した目標値	①111,400人 ②44.6%	①C ②C	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、主催事業の中止や利用者数が減少したことで目標値に届かなかったが、その影響を除けば、多彩な芸術文化の鑑賞機会の提供や施設・設備の適切な維持管理等、業務は適正に実施できていたため。	感染症対策を行いながら施設を運営するとともに、引き続き指定管理者が多彩な自主事業を展開し、広報活動に努め集客を図る。
年間利用率	40%	39.8%	40.8%	40.1%	過去の実績をもとに指定管理者と調整の上、協定締結時の仕様書で設定した目標値	23.3%	C	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、主催事業の中止や利用者数が減少したことで目標値に届かなかったが、その影響を除けば、利用者の利便性の向上に努めたことや施設・設備の適切な維持管理等、業務は適正に実施できていたため。	静岡市民文化会館を含む周辺施設の利用者が利用する駐車場であるため、本施設だけでは利用率を向上することは難しいが、混雑が見込まれるイベント開催時は警備員を常駐させる、満空情報のHP掲載等、利用者の利便性向上に努める。
業務の完了	完了	完了	-	-	令和2年度は基本構想・基本計画の策定を予定しており、定量的評価が適当で無いため、数値目標を設定しない。	未完了	C	B	構想・計画策定に係る市民意見聴取のための市民ワークショップは計画どおり実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、契約に係るプロポーザル審査や業者打合せ等がリモート対応になったこと、ワークショップ開催にあたり感染症対策を講ずるなど、不測の日時を要したため、令和2年度中に業務が完了できず、令和3年度に業務を繰り越した。	令和3年度早期の基本構想・基本計画策定完了を目標とし、業務を進める。
①年間来館者数 ②ホール・ギャラリー利用率	①430,000人 ②65.0%	①439,484人 ②83.5%	①454,260人 ②77.8%	①453,240人 ②65.9%	「清水駅東地区文化施設整備及び維持管理・運営事業 運営業務仕様書」における事業期間第2ターム(平成29年度～令和3年度)で設定した目標値。	①73,954人 ②44.0%	①C ②C	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の中止や利用者数が減少したことで目標値に届かなかったが、その影響を除けば、多彩な芸術文化の鑑賞機会の提供や施設・設備の適切な維持管理等、業務は適正に実施できていたため。	感染症対策を行いながら施設を運営するとともに、引き続き広報等により、施設の利用率の向上に努める。
①「Hotひといきコンサート」来場者数 ②「静岡市民文芸」一般応募者数 ③「静岡市民芸能発表会」参加団体数 ④「伝統文化ワークショップ」参加者数 ⑤「オーケストラ鑑賞事業」参加者数 ⑥「竹久夢二作品展覧会」来場者数 ⑦「平野富山作品等の保管及び展示等業務」展示替回数	①1,000人 ②284人 ③40団体 ④120人 ⑤1,900人 ⑥396人 ⑦3回	①3,789人 ②273人 ③133団体 ④218人 ⑤1,959人 ⑥778人 ⑦3回	①4,939人 ②281人 ③134団体 ④190人 ⑤2,891人 ⑥218人 ⑦3回	①4,318人 ②299人 ③120団体 ④169人 ⑤2,972人 ⑥192人 ⑦3回	①新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として募集定員を設けた数値を目標値として設定(清水80人×6回+静岡65人×8回) ②過去3年間の平均値で設定 ③新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として募集定員を設けた数値を目標値として設定 ④新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として募集定員を設けた数値を目標値として設定(各回30人×4グループ) ⑤新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、席の間隔を確保した上での収容人数(1,968席×50%×2回=1,968人)で目標値を設定 ⑥過去3年間の平均値で設定 ⑦美術作品の保護の観点から予想値を算出し、目標値に設定	①1,097人 ②261人 ③57団体 ④148人 ⑤508人 ⑥2,815人 ⑦3回	①S ②A ③S ④S ⑤C ⑥S ⑦A	A	一部事業については新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として目標値を算出し直し、ほぼ全ての事業で目標を大幅に上回る実績を得た。 ⑤オーケストラ鑑賞事業については緊急事態宣言発出に伴う休校等の影響が大きくキャンセルが相次ぎ、想定を大きく下回る結果となった。しかしながら全体として概ね良好な実績であり、総合的に見て期待通り目標を達成したと評価する。	令和3年度についても新型コロナウイルス感染症の影響が色濃いと予想されるため、目標値については令和2年度と同水準で検討する。また、⑤オーケストラ鑑賞事業についてはコロナの影響を除いても年々申込数が徐々に少なくなっているため、実施回数を2回から1回に見直す。代わりに、①Hotひといきコンサートの一部財源と合わせ、新たに伝統文化に特化した文化芸術アウトリーチを実施する。
静岡市民文化祭来場者数	10,000人	20,132人	20,114人	20,280人	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行った上で、縮小開催(ホール部門を中止)した場合を想定して算出(R1実績:20,132人、R1のホール部門来場者数計10,598人、(20,132-10,598)=9,534人=10,000人)	747人	C	A	目標設定当初はホール部門のみ中止としていたが、協議の結果、展示部門のみ、3日間限りの開催となった。実施内容から考えると実績は十分であり、市民の文化活動を支える内容であったと評価する。	飲食を伴う茶会については、安全性を優先し開催を見送る事としたが、ほぼ全ての事業について例年の水準に近付けて実施する。参加者には高齢者が多く、感染症については十分な配慮をしていく必要がある。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費				⑨人工	
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
文化振興課	288	第79期A級順位戦最終局静岡市実行委員会負担金	H 29 -	補助等(交付先)	徳川家康公とゆかりの深い将棋・囲碁を通じて、静岡市と家康公の繋がりを全国に向けて発信するとともに、静岡市における将棋・囲碁文化の振興と地域活性化を図る。	多面指し指導将棋、色紙サイン会、大盤解説会等、「A級順位戦最終局(第79期A級順位戦最終局)」を開催する。	負担金交付事務の円滑な実施	実施	規模縮小し開催	一般	7,000	-	6,750	1.0	0.0
文化振興課	289	市民ギャラリー管理運営事業	H 1 -	市(委託)	市民に文化に触れる機会と発表の場を提供し、文化の向上を図る。	ギャラリー利用者の受付管理、展示会予定表の作成、作業日誌の作成等の管理運営事務及びギャラリー使用料徴収業務	①業務委託契約の締結 ②業務委託完了報告書の確認 ③業務委託の検収	①1件 ②12件 ③1件	①1件 ②12件 ③1件	一般	7,261	-	6,890	0.0	0.5
文化振興課	290	文化団体運営費補助金	H 17 -	補助等(交付先)	市民文化団体相互の連絡協調を図り、広く市民芸術文化活動の向上に寄与している当該団体の活動を支援することにより、本市の文化振興を図る。	静岡市芸術祭の開催費用(会場費含む)、協会誌発行、運営費(人件費含む)に対し補助金を交付する。	①補助金交付事務の円滑な実施 ②静岡市芸術祭の円滑な実施	①遅滞なく補助金を交付 ②実施	①完了 ②新型コロナウイルス感染症の影響により中止	一般	14,508	-	10,307	0.2	0.0
文化振興課	291	芸術文化活動発表等参加補助金	H 15 -	市(直営)	芸術文化分野の発表会出場者を称えると共に高レベルの目標を達成するための動機付けの一助とし、もって本市文化振興に寄与すること。	中部大会以上の規模の発表会・全国大会の出場者に補助金を交付する。	①交付決定案件数 ②報告書確認件数、検収・確定件数 ③広報紙による周知の件数	①40件 ②40件 ③1件	①5件 ②5件 ③1件	一般	1,091	-	126	0.5	1.0
文化振興課	292	文化振興事業補助金	H 19 -	補助等(交付先)	文化活動への支援を通じて、地域や学校・市民の交流を促進し、文化活動の裾野を広げ、本市の文化振興の一助とする。	「静岡市こどもミュージカル」への補助金交付	①補助金交付事務の円滑な実施 ②交付件数 ③報告書確認件数 ④検収・確定件数	①遅延なく補助金を交付 ②1件 ③1件 ④1件	①完了 ②1件 ③1件 ④1件	一般	200	-	200	0.1	0.0
文化振興課	293	文化振興事業補助金	H 1 -	補助等(交付先)	様々な文化活動への支援を通じて、地域や学校・市民の交流を促進し、文化活動の裾野を広げ、本市の文化振興の一助とする。	「静岡市親子書道展」「静岡市民大音楽祭」「ふれあい音楽事業」「静岡菊花大会」「静岡県郷土唱歌を歌おう」への補助金交付	①補助金交付事務の円滑な実施 ②交付件数 ③報告書確認件数 ④検収・確定件数	①遅延なく補助金を交付 ②2件 ③2件 ④2件	①完了 ②2件 ③2件 ④2件	一般	3,220	-	725	0.4	0.0
文化振興課	294	文化振興助成事業補助金	- -	補助等(交付先)	市民等の文化活動を助成する活動を支援することにより、市の文化振興を図る。	「文化振興事業費助成制度」を実施する文化振興財団への補助金を交付する。	①補助金交付事務の円滑な実施 ②広報紙による周知の件数	①遅延なく補助金を交付 ②1件	①完了 ②1件	一般	2,474	-	789	0.4	0.0
文化振興課	295	中勘助文学記念館管理運営経費	H 7 -	市(委託)	作家中勘助氏の業績の顕彰や市民の文化・文芸活動の場として広く市民の文化向上に寄与すること。	「中勘助文学記念館」の日常管理運営及び中勘助顕彰事業の実施。	①委託契約締結件数 ②完了報告書確認・検収件数(管理運営月報12件)	①7件 ②12件	①7件 ②12件	一般	7,092	-	6,866	0.0	0.5

成果(アウトカム)					評価及び次年度以降に向けた課題・改善など					
⑩成果指標(アウトカム指標)					実績値	達成度	⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容	
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値								当該年度の目標値の算出根拠
		R1	H30	H29						
①応募者数 ②来場者満足度	①600人 ②83%	①1,170人 ②81%	①1,224人 ②85%	①1,366人 ②82%	①436人 ②93%	①B ②S	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、県外在住者の参加を取りやめたり一部事業を縮小したため、①の目標達成はできなかったが、初のオンライン開会式を行い43,000を超える視聴回数を記録するなど「静岡×将棋×家康公」のつながりを広く発信できた。また、②については参加者を静岡県内在住者に限定したが、目標を上回る成果が上がったため。	令和2年度に引き続き、遠方の在住者も楽しめるオンラインを活用した仕掛けづくりやコロナ禍に対応したイベントづくりを行っていく必要がある。	
年間利用率	70.8%	68.4%	70.4%	73.7%	直近3か年平均利用率より算出	34.6%	C	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少したことで目標値に届かなかったが、その影響を除けば、業務は適正に実施できたため。	利用率の向上を図るため、引き続き感染症対策に努めつつ、新たな広報方法の検討・実施に取り組む。
①「静岡市芸術祭」来場者数 ②静岡市文化協会 協会誌の発行および運営	①7,000人 ②完了	①20,345人 ②完了	①21,881人 ②完了	①20,207人 ②完了	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行った上で、縮小開催した場合を想定して算出(R2出展部門におけるR1実績をもとに算出、R1実績:6,436人≒7,000人)	中止	①- ②A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、芸術祭の開催は中止となったが、その影響を除けば、協会誌の発行や団体の運営は通常通り実施しており、その他の業務は適正に実施できたため。	芸術祭は市民の文化活動の発表の場である。多くの市民が携わる事業だけに、実施には慎重な判断が必要とされるが、調整を重ねながら安全に実施できるよう努めていく必要がある。
中部大会以上の規模の発表会・全国大会出場者に補助金を交付した割合	100%	100%(35件/35件)	100%(45件/45件)	100%(42件/42件)	補助金交付申請者に対し、確実に交付決定を行うこととして設定した。(交付件数÷申請件数)	100%(5件/5件)	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、東海大会、全国大会の開催が見送られたため、申請数は目標値を下回ったが、その影響を除けば、申請者全員に補助金を交付することができたため。	引き続き広報活動を実施し周知に努める
「こどもミュージカル」来場者数	-	-	2,258人	-	新型コロナウイルス感染症の影響により、本年度は公演年度から準備年度へ変更したため。	0人	-	-	本番は実施せず、オーディションのみ実施 令和3年度に本番実施予定	新型コロナウイルス感染症の影響により公演年度を変更したことから観覧者数の減少が見込まれるため、広報手法の検討が必要である。
来場者数 ①市民大音楽祭 ②ふれあい音楽事業 ③親子書道展出品数 ④静岡菊花大会 ⑤静岡県郷土唱歌を歌おう	①- ②- ③- ④4,300人 ⑤10,000人	①1,600人 ②1,169人 ③2,349点 ④4,297人 ⑤-	①1,569人 ②1,079人 ③2,534点 ④4,417人 ⑤-	①1,650人 ②1,061人 ③2,617点 ④4,306人 ⑤-	①新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、本年度は中止。 ②新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、本年度は中止。 ③新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、本年度は中止。 ④直近3か年の平均値が4,339人であるため、4,300人を予想値として算出。直近の実施状況より、予想値を目標値として算出。 ⑤来場者数は初回事業のため、実行委員会が想定しているチケット販売数の2/3とする。	①- ②- ③- ④2,808人 ⑤184人	①- ②- ③- ④C ⑤C	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、来場者数が減少したことにより目標値には届かなかったが、その影響を除けば、実施した事業に対する補助金は遅延なく交付できたため。	集客につながるよう各事業のターゲットを明確にし、それを確実に取り込むための事業内容の検討及び積極的な広報活動を促す。
①申込件数 ②助成件数	①12件 ②10件	①9件 ②9件	①15件 ②10件	①13件 ②12件	①②直近3か年の平均値より目標値を設定した。	①15件 ②11件	①S ②S	S	新型コロナウイルス感染症の影響により、一次募集では申請件数が5件にとどまったが、助成金交付規程の一部改訂及び手引きの一部見直しを行ったことで、二次募集では10件の申請を受け入れることができたため。また、各団体に対して遅延なく助成金を交付することができたため。	申込及び助成件数ともに増加させるため、当該制度のPRを充実させるとともに、助成対象要件の緩和等交付規程の改正も視野に入れた検討を促す。
年間来場者数	2,280人	2,116人	2,140人	2,587人	直近3か年の平均来場者数	1,252人	C	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、来場者が減少したことで目標値に届かなかったが、その影響を除けば、業務は適正に実施できたため。	平成30年度から実施している「3館連携事業(現在は芹沢銈介美術館を加えた4館連携)」において、藤枝市、焼津市、芹沢銈介美術館、静岡県立大学との連携を強化していく。

①所属名	事業概要(全体)					活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
	No.	②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費			⑨人工		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
文化振興課	296	静岡音楽館管理運営事業	H 7 ~	市(直営・委託)	市民の音楽に対する関心を高め、市民文化の向上を図る。	指定管理者制度による施設の維持管理を行うとともに、多くの市民が音楽文化に触れる機会を提供するため、各種コンサートや講座を実施する。	①協定書締結件数 ②モニタリング実施回数 ③指定管理業務報告書・検査件数	①1件 ②3回 ③13回	①1件 ②2回 ③13回	一般	373,880	-	372,618	1.0	0.0
文化振興課	297	静岡科学館管理運営事業	H 15 ~	市(直営・委託)	市民が自ら体験することを通して身近な科学に親しみ、及び科学への関心を高める場を提供することにより、市民の創造力及び感性の向上に資する。	指定管理者制度による施設、展示物の維持管理を行うとともに科学の実演会及び講座を実施する。	①協定書締結件数 ②モニタリング実施回数 ③指定管理業務報告書・検査件数	①1件 ②3回 ③13回	①1件 ②2回 ③13回	一般	322,205	-	320,921	1.0	0.0
文化振興課	298	サイエンスキッズ育成事業	H 29 ~	市(委託)	5市2町が連携し、圏域内の子ども達に対し、科学に触れる機会を提供することで、次世代の科学振興の担い手となる人材を育成する。	「あつまれ！ふしぎひろば」の実施、「あつまれ！ふしぎひろば」参加団体支援事業の実施等	①委託契約締結件数 ②完了報告書確認件数 ③検取件数	①1件 ②1件 ③1件	①1件 ②1件 ③1件	一般	4,500	-	4,499	0.3	0.0
文化振興課	299	静岡市美術館管理運営事業	H 22 ~	市(直営・委託)	多様な美術表現を広く市民に公開し、静岡市の特色ある美術文化の創造と発信を行い、美術に関する市民の知識及び教養の向上を図る。	指定管理者制度による施設の維持管理を行うとともに、多くの市民が芸術文化に触れる機会を提供するため、企画展示や講座を実施する。	①協定書締結件数 ②モニタリング実施回数 ③指定管理業務報告書・検査件数	①1件 ②3回 ③13回	①1件 ②2回 ③13回	一般	341,914	-	335,276	1.0	0.0
文化振興課	300	文化振興計画進捗管理事業	H 28 ~	市(直営)	静岡市創造及び交流によりまちの活力を生み出す文化の振興に関する条例に基づき策定された静岡市文化振興計画の進捗管理を行う。	静岡市文化振興計画の進捗管理				一般					
文化振興課	301	文化振興審議会開催事業	H 29 ~	市(直営)	静岡市創造及び交流によりまちの活力を生み出す文化の振興に関する条例に基づき、文化の振興に関する市の施策の総合的な推進を図るため、静岡市文化振興審議会を開催する。	静岡市文化振興審議会の開催	審議会開催回数	5回	4回	一般	633	-	368	1.0	0.0

成果(アウトカム)					評価及び次年度以降に向けた課題・改善など					
⑩成果指標(アウトカム指標)					実績値	達成度	⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容	
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値								当該年度の目標値の算出根拠
		R1	H30	H29						
①施設利用率(年間平均) ②定員に対するコンサート入場者数の割合(年間平均)	① 84.0 % ② 70.0 %	① 77.0 % ② 67.7 %	① 83.5 % ② 69.2 %	① 84.5 % ② 70.0 %	過去の実績をもとに指定管理者と調整の上、協定締結時の仕様書内で設定した目標値	① 60.1% ② 75.8%	①B ②S	A	活動指標については概ね達成できたが、新型コロナウイルス感染症の影響により6月に予定していたモニタリングが中止となったため目標を達成できなかった。新型コロナウイルス感染症の影響により施設利用者の減少やコンサートの中止が生じたが、様々なジャンルのコンサートを開催し市民に対し多彩かつ質の高い音楽の鑑賞機会を提供し、目標を概ね達成することができた。	感染症対策を行いながら施設を運営するとともに、低廉のクラシックコンサート(オルガン¥500コンサート)等を継続して実施することで施設利用者の裾野を広げ、施設利用率向上と来館者数の増加に努める。
①年間来館者数 ②連携事業回数	① 255,000人 ② 100回	① 219,830人 ② 148回	① 245,951人 ② 123回	① 235,808人 ② -	過去の実績をもとに指定管理者と調整の上、協定締結時の仕様書内で設定した目標値	① 76,132人 ② 114回	①C ②S	A	活動指標については概ね達成できたが、新型コロナウイルス感染症の影響により6月に予定していたモニタリングが中止となったため目標を達成できなかった。新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の中止や利用者数が減少したことで来館者数は目標値に届かなかったが、その影響を除けば、施設・展示物の適切な維持管理等、業務は適正に実施できていたため。また、連携事業回数については目標値を上回る回数を実施した。	感染症対策を行いながら施設を運営するとともに、展示物を活用した広報活動等により来館者の確保に努める。
来場者数	200人	1,538人	2,858人	2,552人	R2募集人数をもとに設定。(静岡会場50人×2回(AM・PM)+藤枝会場50人×2回(AM・PM))	289人	S	S	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、事業の実施方法を見直しオンラインを取り入れたリモートでの開催を試みた。結果、3密を回避しつつ目標を44%程度上回る実績を得た。十分に目標を達成したと言える。	令和3年度についても新型コロナウイルス感染症の影響があると考えられるため、オンラインを用いたコンテンツも取り入れつつ、体験の充実を念頭に、安全性に配慮した上で対面式の事業展開も充実させる。
①累計入館者数(150万人・R2～R6) ②展覧会事業における来場者満足度(年間平均)	①30万人(150万人/5年) ②85%	①1,510,545人 ②86.7%	①1,255,217人 ②86.5%	①1,026,516人 ②82.3%	過去の実績をもとに指定管理者と調整の上、協定締結時の仕様書内で設定した目標値	①235,248人 ②92.8%	①B ②S	A	活動指標については概ね達成できたが、新型コロナウイルス感染症の影響により6月に予定していたモニタリングが中止となったため目標を達成できなかった。新型コロナウイルス感染症の影響により、入館者数においては目標値に届かなかったが、日時指定予約システム等の感染症対策をとりながら施設を運営した。また、展覧会事業における来場者満足度は目標値を大きく上回っており、業務は適正に実施できていたため。	感染症対策を行いながら展覧会を開催するとともに、効果的な広報手段を検討することや、展覧会関連事業を充実させることで、展覧会の魅力を発信し、入館者数の増に努める。
審議会への後期実施計画のR1年度実施報告及び評価審議の実施に伴う報告書の作成	完成	完成	-	-	当該業務は計画の実施報告ならびに審議会での報告書作成を目標としており、定量的評価が適当で無いため、数値目標を設定しない。	完成	A	A	後期実施計画の令和元年度実施報告、評価審議の実施に伴う報告書の作成は悉く完了した。市ホームページへの情報公開を含め滞りなく完了したため、予定通り実施されたと評価できる。	審議会に対し令和2年度の実施報告を行うが、新型コロナウイルスの影響により実施計画の大多数に中止ないし内容変更が迫られる結果となっている。これを前提に、事業評価の基準について見直しを検討する必要があり、審議の中で令和3年度に向けた基準を設けていく。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費			⑨人工		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
文化振興課	302	芹沢銈介美術館協議会開催事業	S 56 -	市(直営)	芹沢銈介美術館協議会で聴取した意見等を施設の管理運営に反映し、効率的経営、市民サービスの向上を図る。	静岡市博物館条例に基づき、美術館協議会委員による会議を開催する。	協議会開催回数	2回	2回	一般	230	-	196	0.5	0.5
文化振興課	303	芹沢銈介美術館管理運営事業	S 56 -	市(直営)	静岡市名誉市民であり型絵染の人間国宝・芹沢銈介の芸術を永く後世に伝える。美術に関する知識の向上と文化の発展に寄与する。	芹沢銈介の型絵染の作品等や芹沢銈介が収集した世界各国の工芸品の展示を行うとともに、講座や講演会等教育普及事業を実施する。	①企画展の開催回数 ②講演会・講座等教育普及事業の開催回数 ③開館日数	①3回 ②10回 ③228日	①3回 ②14回 ③228日	一般	43,398	-	39,926	2.5	2.5
文化振興課	304	文化活動緊急支援補助金	R 2 - R 3	市(直営)	新型コロナウイルス感染症拡大防止に鑑み、市長が定める市有施設における感染防止方針に基づく感染防止対策を講じた上で実施する本市施設での文化活動を開催する事業を支援することにより、現下の状況における市民の文化活動への参画を促進し、もって文化の持続的な振興を図る。	市内に住所を有し、又は所在する個人又は団体が市長が必要であると認めるものを対象とし、要綱における文化活動を本市施設(静岡市民文化会館の大ホール、中ホール及び大会議室・静岡市清水文化会館の大ホール及び小ホール・静岡音楽館のホール及び講堂)において実施するものに対し補助対象経費の2分の1、20万円を上限とし支給する。	①交付決定案件数 ②報告書確認件数、検収・確定件数	①50件 ②50件	①91件 ②91件	一般	8,409	-	8,409	0.3	0.1
スポーツ振興課	305	蒲原東部・西部コミュニティセンター管理運営事業	H 18 -	市(直営)	市民の自治意識の向上、健康の増進及び生活文化の振興のために、身近な地域における交流の場を提供する。	施設の維持管理を行う。	①各種委託契約締結件数 ②施設の小破修繕の実施	①6件 ②適宜	①6件 ②6件	一般	4,795	-	4,235	0.4	0.1
スポーツ振興課	306	野外活動施設管理事業	- -	市(直営・委託)	気軽に自然と触れ合える環境を整備することにより、市民の健康増進とレクリエーションの振興を図る。	キャンプ場、ハイキングコースの維持管理を行うとともに、活動の場の安全対策を図る。	①土地賃貸借契約締結件数 ②謝金の支払件数 ③ハイキングコースの整備	①41件 ②70件 ③実施	①41件 ②70件 ③実施	一般	49,603	-	45,801	2.0	0.2
スポーツ振興課	307	興津川キャンプ対策協議会負担金	S 61 -	補助等(交付先)	気軽に自然と触れ合える環境を整備することにより、市民の健康増進とレクリエーションの振興を図る。	キャンプ客の多い7月から9月まで、4箇所のキャンプ適地に管理人を配置し、興津川キャンプ対策協議会で維持管理を行う。	①負担金支払に係る事務等の実施 ②総会の開催補助	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	4,524	-	4,524	0.2	0.1
スポーツ振興課	308	スポーツ施設予約システム管理事業	H 21 -	市(直営・委託)	インターネットを活用したサービスを提供することにより、各種スポーツ施設予約の利便性向上を図る。	①利用者登録 ②抽選申込み ③空き施設検索、予約申込 ④利用許可書発行	①利用者登録 ②システム運用の円滑な実施	①随時 ②実施	①実施 ②実施	一般	15,551	-	15,204	1.0	0.4
スポーツ振興課	309	ふれあい健康増進館ゆ・ら管理運営事業	H 18 -	市(委託)	市民が気軽に楽しく心身のリフレッシュに努めることにより、世代間の交流の促進を図るとともに、市民の健康増進に寄与する施設を提供する。	施設の維持管理を行うとともに、市民向けに健康増進に関するスポーツ等教室を開催する。	①協定締結件数、年度評価件数 ②入退館管理システム賃貸借契約	①2件 ②実施	①2件 ②実施	一般	271,652	-	268,551	0.6	0.1

成果(アウトカム)							評価及び次年度以降に向けた課題・改善など			
⑩成果指標(アウトカム指標)							⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容	
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			当該年度の目標値の算出根拠	実績値				達成度
		R1	H30	H29						
①年間観覧者数 ②観覧者満足度	① 8,000人 ②97%	① 16,635人 ②97%	① 16,128人 ②97%	① 17,105人 ②97%	①新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、年間観覧者数の直近3か年の平均値の5割減とした。 ②観覧者アンケートの満足度の直近3か年の平均を考慮し設定した。	① 11,994人 ② 98.8%	①S ②A	A	令和2年4月18日から5月末日まで臨時休館とするなど、年間を通して新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、Twitterの新規開設等、広報活動の充実を図り、下方修正した目標値を大幅に超える数値となった。	近年減少傾向にある観覧者数を回復させるため、引き続き感染症対策に努めつつ、関係機関との連携や新たな広報方法の検討・実施に取り組む。
申請者に補助金を交付した割合	100%	単年度事業のため実績なし	単年度事業のため実績なし	単年度事業のため実績なし	補助金申請者に対し、交付決定を行うこととして設定した。(交付件数÷申請件数)	100% (91件/91件)	A	A	申請数は目標を上回り、申請を受け付けた全員に決定通知、確定通知を送付し補助金を交付することができた。	当該事業は、令和2年度のみ実施する事業であるため、本年度で事業を終了する。
利用者数	15,790人	16,205人	14,663人	14,246人	過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	10,153人	C	A	目標値及び前年度実績は下回ったが、緊急事態宣言を受け4月から5月にかけて施設を閉館したことを考慮した上で、適正な利用者数の確保及び必要な契約・修繕の実施による維持管理ができたため。	地元自治会と連携・調整を図り、適正な維持管理を継続して行う。
キャンプ場利用者数	5,460人	5,493人	5,241人	4,842人	過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	4,850人	B	A	目標値には到達しなかったが、緊急事態宣言及び大雨被害による閉館期間を除けば、概ね目標どおりの利用者数を維持できたため。	協議会や関係者と連携し、管理体制を強化し、適切な事業運営を実施する。
利用者数	21,150人	19,424人	19,331人	21,669人	過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	27,865人	S	S	目標値及び前年度実績を大幅に上回る利用者数となった。新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、協議会関係者と連携し適切な運営管理を実施したため。	協議会や関係者と連携し、適正な事業運営を継続して行う。
アクセス件数	1,900,000件	1,535,928件	1,559,365件	1,878,653件	H30、R1は工事や災害による一部施設の休館に伴いアクセス件数が少なかったが、R2は工事の影響が少ないことから、H29の実績値を目標値として設定した。	1,632,701件	B	A	緊急事態宣言を受け、4月から5月の一定期間において、施設を休館し、また解除後も施設利用者数の制限などを行っていたことからアクセス数が目標よりも下回ったが、必要な契約の締結及びシステムの管理は計画通り実施することができたため。	引き続き利用状況を把握し、利用者が増加するよう取り組んでいく。
①利用者満足度 ②利用者数	① 96.9% ② 235,440人	① 96.9% ② 214,361人	① 96.7% ② 230,722人	① 96.0% ② 227,579人	①前年度数値を目標値として設定した。 ②過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	① 99.2% ② 125,816人	①A ②C	A	利用者満足度は目標達成した。緊急事態宣言を受け、4月から5月に全館休館したこと及びその後も利用制限を行ったことにより、利用者数は目標値を下回ったものの必要な協定及び修繕は計画通り実施できたため。	引き続き利用状況を把握し、今後も利用者満足度を高い数値で維持していく。指定管理者と連携し、適切な管理を実施する。

①所属名	事業概要(全体)					活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
	No.	②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費				⑨人工	
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
スポーツ振興課	310	スポーツ施設維持管理事業	H 18 -	市(直営・委託)	スポーツ、レクリエーション等のための施設を提供する。	施設の維持管理を行うとともに、市民向けに様々なスポーツ教室等を開催する。	①協定締結件数、年度評価件数 ②政策修繕の実施	①3件 ②実施	①3件 ②実施	一般	333,206	—	287,508	4.8	4.5
スポーツ振興課	311	清水庵原球場管理事業	H 17 -	市(委託)	野球等のスポーツ振興及び市民の健康増進を図る。	施設管理を行うとともに、各種事業を開催する。	①協定締結件数、年度評価件数 ②政策修繕の実施	①2件 ②実施	①2件 ②実施	一般	58,948	—	57,567	0.2	0.1
スポーツ振興課	312	体育館管理運営事業	S 42 -	市(直営・委託)	スポーツ、レクリエーション、文化活動等のための施設を提供する。	施設の維持管理を行うとともに、市民向けに様々なスポーツ等教室を開催する。	①協定締結件数、年度評価件数 ②政策修繕の実施	①2件 ②実施	①2件 ②実施	一般	653,363	—	631,177	1.2	0.2
スポーツ振興課	313	総合運動場管理運営事業	H 18 -	市(委託)	スポーツ、レクリエーション、文化活動等のための施設を提供する。	施設の維持管理を行うとともに、市民向けに様々なスポーツ等教室を開催する。	①協定締結件数、年度評価件数 ②政策修繕の実施	①2件 ②実施	①2件 ②実施	一般	530,822	—	515,174	2.0	0.1
スポーツ振興課	314	日本平運動公園管理事業	S 61 -	市(委託)	プロサッカー等の開催によるスポーツ振興及び市民の健康増進を図る。	施設管理を行うとともに、リーグ及び各種事業を開催する。	①協定締結件数、年度評価件数 ②政策修繕の実施	①2件 ②実施	①2件 ②実施	一般	163,682	—	154,747	0.3	0.1
スポーツ振興課	315	清水ナショナルトレーニングセンター管理運営事業	H 13 -	市(委託)	サッカー等、国内外のトップアスリートの利用に供するとともに、スポーツ振興及び市民の健康増進を図る。	施設管理を行うとともに、各種事業を開催する。	①協定締結件数、年度評価件数 ②政策修繕の実施	①2件 ②実施	①2件 ②実施	一般	215,673	—	210,113	0.3	0.1
スポーツ振興課	316	各種目別全国大会出場選手補助金	H 16 -	補助等(交付先)	スポーツ選手を育成及びスポーツ団体等によるスポーツ活動を支援し、スポーツの振興を図る。	市を代表して全国的な規模及び水準で開催されるスポーツ競技大会に出場するスポーツ選手が所属するスポーツ団体等に対し、補助金を交付する。	①体育協会加盟団体への申請事務説明会の円滑な実施 ②補助金交付に係る事務処理の円滑な実施	①実施 ②実施	①中止 ②実施	一般	1,895	—	1,796	0.2	0.0

成果(アウトカム)					評価及び次年度以降に向けた課題・改善など					
⑩成果指標(アウトカム指標)					実績値	達成度	⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容	
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値								当該年度の目標値の算出根拠
		R1	H30	H29						
①利用者満足度 ②利用者数	① 97.9% ② 1,033,790人	① 97.9% ② 934,623人	① 98.5% ② 947,072人	① 97.4% ② 1,071,982人	①前年度数値を目標値として設定した。 ②過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	① 98.9% ② 775,244人	①A ②B	A	利用者満足度は目標達成した。緊急事態宣言を受け、4月から5月の一定期間において、全館休館したこと及びその後も利用制限を行ったことにより、利用者数は目標値を下回ったものの必要な協定及び修繕は計画通り実施できたため。	引き続き利用状況を把握し、今後も利用者満足度を高い数値で維持していく。指定管理者と連携し、適切な管理を実施する。
①利用者満足度 ②利用者数	① 97.9% ② 100,480人	① 97.9% ② 94,709人	① 98.7% ② 103,045人	① 98.0% ② 89,328人	①前年度数値を目標値として設定した。 ②過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	① 90.1% ② 37,039人	①A ②C	A	利用者満足度は目標達成した。緊急事態宣言を受け、4月から5月の一定期間において、全館休館したこと及びその後も利用制限を行ったことにより、利用者数は目標値を下回ったものの必要な協定及び修繕は計画通り実施できたため。	引き続き利用状況を把握し、今後も利用者満足度を高い数値で維持していく。指定管理者と連携し、適切な管理を実施する。
①利用者満足度 ②利用者数	① 99.2% ② 929,010人	① 99.2% ② 868,425人	① 98.3% ② 864,909人	① 98.0% ② 920,964人	①前年度数値を目標値として設定した。 ②過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	① 99.2% ② 570,842人	①A ②C	A	利用者満足度は目標達成した。緊急事態宣言を受け、4月から5月の一定期間において、全館休館したこと及びその後も利用制限を行ったことにより、利用者数は目標値を下回ったものの必要な協定及び修繕は計画通り実施できたため。	引き続き利用状況を把握し、今後も利用者満足度を高い数値で維持していく。指定管理者と連携し、適切な管理を実施する。
①利用者満足度 ②利用者数	① 97.8% ② 351,240人	① 97.8% ② 336,871人	① 97.9% ② 337,215人	① 98.0% ② 329,450人	①前年度数値を目標値として設定した。 ②過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	① 98.5% ② 239,619人	①A ②C	A	利用者満足度は目標達成した。緊急事態宣言を受け、4月から5月の一定期間において、全館休館したこと及びその後も利用制限を行ったことにより、利用者数は目標値を下回ったものの必要な協定及び修繕は計画通り実施できたため。	引き続き利用状況を把握し、今後も利用者満足度を高い数値で維持していく。指定管理者と連携し、適切な管理を実施する。
①利用者満足度 ②利用者数	① 97.9% ② 356,540人	① 97.9% ② 319,479人	① 96.0% ② 326,968人	① 97.6% ② 372,237人	①前年度数値を目標値として設定した。 ②過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	① 98.9% ② 129,510人	①A ②C	A	利用者満足度は目標達成した。緊急事態宣言を受け、4月から5月の一定期間において、全館休館したこと及びその後も利用制限を行ったことにより、利用者数は目標値を下回ったものの必要な協定及び修繕は計画通り実施できたため。	引き続き利用状況を把握し、今後も利用者満足度を高い数値で維持していく。指定管理者と連携し、適切な管理を実施する。
①利用者満足度 ②利用者数	① 97.5% ② 227,460人	① 97.5% ② 203,496人	① 97.6% ② 226,143人	① 97.6% ② 220,249人	①前年度数値を目標値として設定した。 ②過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	① 100% ② 124,069人	①A ②C	A	利用者満足度は目標達成した。緊急事態宣言を受け、4月から5月の一定期間において、全館休館したこと及びその後も利用制限を行ったことにより、利用者数は目標値を下回ったものの必要な協定及び修繕は計画通り実施できたため。	引き続き利用状況を把握し、今後も利用者満足度を高い数値で維持していく。指定管理者と連携し、適切な管理を実施する。
交付件数	27件	136件	165件	139件	新型コロナウイルス感染症の影響により下半期の過年度実績をもとに目標値を設定した。	38件	S	S	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事務説明会を中止し、資料送付のみとした。全国大会については開催数が減り、交付申請が減少したが、実施された大会への補助は適正に執行できたため。	制度認知度を向上させ、交付申請数の増加をはかるため、市内学校への手引きの配布や、(公財)静岡市体育協会加盟団体への説明会等の場を活用し、制度周知を行う。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費			⑨人工		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
スポーツ振興課	317	スポーツ推進審議会事業	- -	市(直営)	静岡市スポーツ推進計画に基づき、市民のスポーツ推進を図る。	スポーツ基本法第31条の規定に基づき、地方スポーツ推進計画その他のスポーツの推進に関する重要事項を調査審議する。	①審議会の開催 ②会議録の作成及び公表	①3回 ②3回	①3回 ②3回	一般	731	-	307	0.4	0.0
スポーツ振興課	318	スポーツ推進委員関連事業	H 16 -	市(直営)	スポーツ推進委員が地域で活動することにより、市の掲げる目標である“市民一人1スポーツ”を推進する。	・委員報酬の支払い ・連絡協議会への補助金交付 ・ニュースポーツイベントの開催 ・推進委員向け研修会の受講促進	①研修会の円滑な開催 ②ニュースポーツ普及のイベントが円滑に実施できるよう支援	①2回 ②14回	①中止 ②1回	一般	22,208	-	2,665	2.4	0.0
スポーツ振興課	319	各種スポーツ教室	- -	市(直営)	競技人口の拡大と各種目の競技力向上及び、“市民一人1スポーツ”の推進を図る。	幼児や小学生または、初心者を対象としたスポーツ教室を開催する。	①教室の円滑な開催(初心者) ②教室の円滑な開催(クライミング) ③教室の円滑な開催(陸上教室)	①24回 ②6回 ③3回	①4回 ②中止 ③10回	一般	1,296	-	244	0.5	0.0
スポーツ振興課	320	指導者向け講習会	S 55 -	市(直営)	各分野の専門講座を開き、指導者が正しい知識と指導法を習得するための学習の場を提供することで、指導者の育成と資質向上を図る。	大学教授や医師、インストラクター等を招いて基本的な指導法の習得を図るための講習会を開催する。	①講習会講師等との打合せ回数(各講習会1回) ②スポーツ指導者向け講習会の円滑な開催 ③学校プール監視員講習会の円滑な開催	①8回 ②6回 ③2回	①6回 ②6回 ③中止	一般	122	-	0	0.3	0.0
スポーツ振興課	321	学校等体育施設利用事業	- -	市・補助等(直営・交付先)	学校施設を利用することで、地域住民のスポーツ活動への参加機会を創出し、地域のスポーツ活動を推進する。	学校ごとに、学校等体育施設利用運営協議会を置き、利用団体の登録や利用調整を行う。	①利用事業協議会の円滑な開催 ②事務担当者説明会の円滑な開催 ③夜間照明施設の小規模修繕の実施	①実施 ②実施 ③適宜	①中止 ②中止 ③実施	一般	72,654	-	69,557	0.9	1.0
スポーツ振興課	322	静岡市民大会等開催業務	H 29 -	市(委託)	各種市民大会等を開催することにより、市民のスポーツ実施の機会創出と健康づくりを促し、“市民一人1スポーツ”の推進と競技力の向上を図る。	各競技団体を主管として各種目別大会やラジオ体操祭を開催する。(H15から事業実施、H29から委託)	①適切な委託事務の実施 ②実施大会の効果的な広報の実施 ③参加者を増やすための体育協会との打合せの実施	①実施 ②実施 ③実施	①実施 ②実施 ③中止	一般	9,262	-	6,863	0.3	0.0
スポーツ振興課	323	市体育協会補助金	H 18 -	補助等(交付先)	(公財)静岡市体育協会のスポーツの普及・振興を図るための事業実施を支援する。	(公財)静岡市体育協会へ補助金を交付し、スポーツの普及・振興を図るための事業を実施する。	①補助金交付事務の円滑な実施 ②参加者を増やすための体育協会との打合せの実施	①実施 ②適宜	①実施 ②中止	一般	16,512	-	12,486	0.2	0.0

成果(アウトカム)					評価及び次年度以降に向けた課題・改善など					
⑩成果指標(アウトカム指標)					実績値	達成度	⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容	
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値								当該年度の目標値の算出根拠
		R1	H30	H29						
意見書の提出	諮問に対する答申の検討	実施	諮問に対する意見の検討	改訂(案)の検討	審議会は2年を任期とし、市教育委員会の諮問を受け、審議内容を意見書としてまとめている	諮問に対する答申の検討	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ実施率の向上のため、諸方策の更なる検討が求められる。 ・令和5年度開始のスポーツ推進計画通り審議会を開催したため。 	
参加者数 ①チャレンジ！スポーツラリー(1回) ②チャレンジ！スポーツDAY(4回) ③ニューススポーツ交流大会(9回)	①380人 ②延べ280人 ③1130人	①中止 ②延べ332人 ③1218人	①464人 ②延べ321人 ③1130人	①343人 ②延べ397人 ③989人	①過去3年の実績値を基に設定した。 ②H30からチャレンジスポーツDAYの回数を2回減らしたため、削減した2回の参加者実数を減らした目標値とした。③各区におけるニューススポーツ普及の体験会の種目・回数を増やしたためH30の実績を目標値とした。	①115人 ②中止 ③中止	①C ②- ③-	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学区や地区でニューススポーツ大会の開催を望む声があり、スポーツ推進委員会を中心に地域での普及事業にも力を入れていく必要がある。 ・運営方法やルールの徹底、新種目の導入など、課題に対して推進委員同士の連携を図って改善していく。 	
①初心者スポーツ教室の参加者数 ②クライミング教室の参加者数 ③陸上教室の参加者数	①延べ690人 ②延べ144人 ③延べ30人	①367人 ②88人 ③360人	①延べ541人 ②未実施	①延べ464人 ②延べ127人	①各種目の定員の合計を目標とした。 ②定員×教室数を目標とした。 ③新規事業のため、参加見込定員数を目標とした。	①延べ89人 ②中止 ③520人	①C ②- ③S	A	<ul style="list-style-type: none"> 初心者教室について、新型コロナウイルス感染症の影響により、教室の開催が減少したため参加者数も減少したものの、走り方教室は目標より多く開催することができ、参加者数が増加したため。 	
参加者数 ①スポーツ指導者スキルアップ講習会 ②学校プール監視員講習会	①180人 ②205人	①延べ121人 ②169人	①延べ83人 ②197人	①延べ55人 ②213人	①静岡市スポーツ推進計画の目標値をもとに設定した。 ②過去3年の実績をもとに設定した。	①177人 ②中止	①A ②-	A	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ指導者スキルアップ講習会では、各カリキュラムの最後に、講師による確認テストや自己評価によるアンケートを実施して習得度等を図ることで、より参加者のニーズやレベルに合わせた講習ができるよう静岡市体育協会と調整していく。学校プール監視員講習会では、利用団体に対する周知を徹底して行い、参加者増加に繋げる。 	
①利用件数 ②利用者数	①94,000件 ②延べ216万人	①83,834件 ②延べ1,917,514人	①87,717件 ②延べ2,059,040人	①94,322件 ②延べ2,158,377人	①②平成29年度実績をもとに設定した。	①71,171件 ②1,569,032人	①B ②B	A	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言を受け、4月から5月にかけて利用を停止したことにより実績値が減少したが、その影響を除けば、概ね期待どおりの利用を維持できたため。 	
①各種市民大会開催競技団体数 ②各種市民大会参加者数 ③ラジオ体操祭参加者数	①31団体 ②48,000人 ③2,600人	①31団体 ②39,531人 ③1,378人	①31団体 ②46,856人 ③中止	①31団体 ②2,011人	静岡市スポーツ推進計画の目標値をもとに設定した。(ラジオ体操祭は、H28年度から市内3会場から2会場へ減じている)	①18団体 ②25,064人 ③中止	①C ②C ③-	A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、市民大会を開催できた団体及び参加者数が減少したが、実施された大会への補助は適正に執行できたため。 	
参加者数 ①体協ウォーキング ②スポーツ講演会 ③スポーツ指導者資質向上講習会	①50人 ②357人 ③75人	①127人 ②359人 ③34人	①43人 ②325人 ③67人	①33人 ②356人 ③38人	①H28、H29の同コース規模の実績をもとに3割増を目標に設定した。 ②過去3年の実績のうち高い実績の平均で設定した。 ③H28の同講師による講習会実績をもとに3割増を目標に設定した。	①中止 ②161人 ③未実施	①- ②C ③-	A	<ul style="list-style-type: none"> 日頃、運動・スポーツを行わない市民に対し、いかにスポーツを実施してもらうか、事業の内容とその周知方法について、静岡市体育協会と協議し、参加者の増加を図っていく。 	

①所属名	事業概要(全体)					活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
	No.	②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費			⑨人工		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
スポーツ振興課	324	葵区及び駿河区地域スポーツ振興事業補助金	S 58 -	補助等(交付先)	地域のスポーツ活動を支援し、市の掲げる目標である“市民一人1スポーツ”の推進をする。	地域のスポーツ活動を支援し、スポーツ振興を図るために運動会等を開催する葵区及び駿河区の小学校区の自治会連合会に対して補助金を交付する。	①補助金交付事務処理の円滑な実施 ②学区体育行事年間計画書、報告書の集計	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	1,500	—	230	0.2	0.0
スポーツ振興課	325	高等学校野球大会補助金	H 3 -	補助等(交付先)	市内高校の競技力向上とチーム間の交流を図る。	市内17校によるトーナメント戦を開催するため、実行委員会に対して補助金を交付する。	①補助金交付事務処理の円滑な実施 ②実行委員会の円滑な開催 ③大会の円滑な開催、運営の補助	①実施 ②実施 ③実施	①実施 ②実施 ③実施	一般	976	—	823	0.4	0.0
スポーツ振興課	326	静岡県市町対抗駅伝競走大会選手強化事業補助金	- -	補助等(交付先)	静岡市の市民意識の高揚、市民スポーツの振興を図ると同時に長距離選手の発掘育成を行う。	本市代表チームの選手選考、強化を行うため、静岡市陸上競技協会に補助金を交付する。	①事務処理の円滑な実施 ②担当者説明会への出席回数	①実施 ②2回	①実施 ②2回	一般	1,895	—	1,895	0.3	0.0
スポーツ振興課	327	スポーツイベント緊急支援補助金	R 2 -	補助等(交付先)	市有スポーツ施設にて入場料等を徴収してスポーツイベントを開催する事業を支援することにより、市民のスポーツ参画を促進し、もってスポーツの振興を図るため。	入場料等を徴収する市有スポーツ施設の利用者に対し、使用料の一部を助成する。	①補助金交付事務処理の円滑な実施 ②制度周知の実施	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	7,000	—	2,676	0.2	0.0
スポーツ交流課	328	オリンピック・パラリンピック合宿等誘致事業	H 27 -	市(直営・委託)	合宿誘致を契機に、ホストタウン相手国・地域との交流(人的・経済的・文化的)を推進するほか、本市の魅力や存在感を国内外に広く発信する。また、相手国・地域との国際交流を通じ、児童生徒等の国際意識を高め、今後の交流の担い手となる人材育成を図る。	合宿誘致に加え、コロナ禍、ホストタウン相手国・地域の合宿受入れが急遽中止になる中、相手国・地域との継続した交流の推進に向けた各種事業の実施	合宿誘致、ホストタウン関連業務の円滑な実施	実施	実施	一般	26,713	—	4,291	4.0	1.0
スポーツ交流課	329	清水エスパルス交流事業補助金	H 8 -	補助等(市・交付先)	清水エスパルスが実施する、青少年育成や地域交流を推進する各種事業を支援する。	(株)エスパルスへの補助金の交付(地域交流応援シート、ホームゲーム小中学生招待、巡回スポーツ教室の開催支援)	①補助金交付事務の実施 ②補助対象事業の実施支援	①実施 ②実施	①実施 ②一部実施	一般	4,500	0	2,700	0.3	0.1

成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など				
⑩成果指標(アウトカム指標)						実績値	達成度	⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			当該年度の目標値の算出根拠					
		R1	H30	H29						
スポーツ振興事業実施事業数	204事業	290事業	290事業	282事業	前年度の実績を基に設定した。	53事業	C	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの地区で事業が中止となり事業数が減少したが、実施された事業への補助は適正に執行できたため。	地域のスポーツ活動が活性化し、より多くの市民が参加するよう、更なる制度の周知を図る。
①市内高校チームへのアンケート調査における満足度 ②高校野球春季大会県大会における市内高校出場数	①80% ②5校以上	①94.1% ②7校	0校	2校(明治神宮大会:静高、選抜:静高)	大会が市内各高校の交流、競技力向上に資するかを成果指標とし、大会アンケート調査を行うとともに、本大会後、直近の公式大会である春季大会の県大会における市内高校の出場校数とした。なお、春季大会県大会へは、中部地区全32校から8校が出場することができる。市内には17校あるため、中部地区における市内高校の割合を求め、5校以上と算出した。	①100% ②0校	①S ②C	A	満足度において、参加校全校が本大会に満足、ほぼ満足という回答だった。県大会への出場校数は目標値を達成できなかったが、大会自体の価値はアンケートでも高く、今後も継続していく。	引続き市内大会を開催することにより、各校の交流を図り、選手たちが試合経験を積む場を提供することで、一層の競技力向上を図る。
参加チームの順位(市の部:25チーム)	①静岡:3位 ②清水:15位	①静岡:2位 ②清水:12位	①静岡:2位 ②清水:15位	①静岡A:4位 ②静岡B:15位 ③清水:17位	平成30年度から静岡1チーム、清水1チームの計2チームでの出場となったため算出方法を新たに設定。過去3年間の平均値をもとに算出するが、静岡チームについては、昨年度までの2チーム出場時のうち良い方の記録を選択し、算出する。	①静岡:7位 ②清水:16位	①B ②A	B	静岡及び清水チームともに目標の順位を下回ったが、新型コロナウイルス感染症の影響で調整が困難な状況を考慮すれば健闘した結果だった。	現状では好成績を残しているが、今後、全市的な陸上競技人口減少(特に長距離)や、レベルの低下が心配されるため、競技人口増加及び競技力向上の方法について市陸協と連携し、検討を行う必要がある。
申請者に補助金を交付した割合	100%	—	—	—	補助金申請者に対し、交付決定を行うこととして設定した。	100%	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、開催イベント数が伸び悩んだことから申請数は目標を下回ったものの、申請を受け付けた全員に決定通知、確定通知を送付し補助金を交付することができた。	引き続き対象施設の指定管理者と連携し、制度の周知を図っていく。
①本課が実施するホストタウン理解推進講座への参加校 ②ホストタウン相手国・地域とのオンラインによる交流事業件数	①10校 ②2件	①— ②—	①— ②—	①— ②—	①講師(ホストタウンリーダー)の派遣可能な回数(10回程度)を踏まえ、10校の参加を目標値とする。 ②本市での合宿・交流実績のある台湾、スペインの競技団体との交流を図ることを目指し、各1件、計2件を目標値とする。	①7校 ②4件	①B ②S	A	①新型コロナウイルス感染症の影響により、小学校における外部講師の受入れが困難であったため、目標値を下回った。 ②競技団体のみならず、台湾の行政機関やスペインの大学とのオンライン交流事業を実施することができた。	コロナ禍における事業実施であったため、参加校が少ない等の課題もあった。令和3年度も引き続きコロナ禍での事業実施が想定されるため、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、安全安心な講座の開催方法を検討していく。
①地域交流応援シート事業参加者数 ②小中学生招待者数 ③巡回スポーツ教室参加園数	①3,500人 ②900人 ③130園	①3,381人 ②859人 ③128園	①3,552人 ②646人 ③126園	①4,095人 ②903人 ③126園	①R元年度から料金改定があり、参加者が減少しているため、改定前のH30年度並みの参加者数を目標とする。 ②過去3か年の最高値と同程度を目指す。 ③エスパルススタッフの人員及び実施スケジュールから最大限実施可能な数値とした。	①— ②535人 ③121園	①— ②C ③A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、①地域交流応援シートは中止、②小中学生招待は対象試合を2試合から1試合に減少したことでも目標値を下回った。その影響を除けば、②は目標値の1試合換算450人を上回り、また、事業周知チラシを市内全小中学生に配布しクラブのPRを図り、③では、当該事業実施アンケートで参加全園が満足と回答するなど、成果指標以外にも相応の成果を得た上で、事業を適正に実施できたため。	令和2年度と同様に、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、①地域交流応援シートは、事業実施の可否や方法を検討する。 ②小中学生招待は、ホームゲームそのものの入場制限を踏まえた適切な対象試合数・招待者数を検討する。 ③巡回スポーツ教室は、R2と同様に、事業の継続を図る。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費			⑨人工		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
スポーツ交流課	330	清水エスパルスアウェイゲームパブリックビューイング開催事業	H 29 -	市(直営・委託)	市民が清水エスパルスに触れる機会、観戦する機会をより多く創出する。	清水エスパルスアウェイゲームパブリックビューイングの開催	①委託契約事務の実施 ②パブリックビューイングの開催件数	①実施 ②5回	①実施 ②3回	一般	5,403	0	5,396	0.4	0.0
スポーツ交流課	331	清水エスパルス活用・応援機運醸成事業	H 28 -	市(直営・委託)	市民が、本市の心の公共財である清水エスパルスを応援する機会を醸成する。	①事業・イベント等への選手・マスコット等の派遣 ②エスパルス応援横断幕の作成、グッズの購入等	①エスパルス選手等の派遣回数 ②作成・購入物品の活用回数	①10回 ②15回	①13回 ②10回	一般	2,500	0	1,870	0.2	0.3
スポーツ交流課	332	サッカーを活かしたまちづくり推進事業	H 16 -	市(直営・委託)	本市の地域資源であるサッカーを活かし、地域の賑わい創出や子どもの健全育成及び、施策推進に向けた関係各者との連携強化等を図る。	①JFAこころのプロジェクト「夢の教室」開催 ②日本サッカーを応援する自治体連盟等、関係各者との連携 ③エスパルス教育サポート事業「エスパルス」の授業実施支援 ④エスパルスホームタウンコーナーの設置 ⑤サッカーのまち啓発「オレンジバナー」の掲出 ⑥各種サッカー大会開催支援	①「夢の教室」開催クラス数 ②日本サッカー応援自治体連盟関連会議への参画回数 ③授業回数 ④各区へのホームタウンコーナー設置 ⑤オレンジバナーの掲出箇所数 ⑥支援する大会の数	①3クラス ②4回 ③10回 ④4実施 ⑤8箇所 ⑥3大会	①3クラス ②2回 ③10回 ④4実施 ⑤8箇所 ⑥3大会	一般	2,222	0	623	0.5	0.5
スポーツ交流課	333	フットサル・サッカーのまち市民協議会補助金	H 7 -	補助等(市・交付先)	ホームタウンチームを活かしたまちづくりを官民連携して推進する「フットサル・サッカーのまち市民協議会」の活動を支援する。	同協議会への補助金の交付(オレンジスポーツフィールド、ホームタウンチームPR事業、サッカー日本代表応援事業等)	①補助金交付事務の実施 ②補助対象事業の実施支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	1,455	0	1,185	0.4	0.1
スポーツ交流課	334	野球を活かしたまちづくり推進事業	H 25 -	補助等(市・交付先)	市民野球熱の醸成を図り、野球を活かした地域活性化を推進する。	①楽天イーグルス市民交流事業の開催 ②プロ野球オープン戦開催支援 ③野球を活かしたまちづくり推進可能性調査の実施	①楽天市民交流事業の実施 ②オープン戦告知活動の実施 ③可能性調査の実施	①実施 ②実施 ③実施	①一部実施 ②実施 ③実施せず	一般	3,207	0	2,408	1.0	0.0

成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など				
⑩成果指標(アウトカム指標)						実績値	達成度	⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			当該年度の目標値の算出根拠					
		R1	H30	H29						
①延べ来場者数 ②パブリックビューイングに満足した来場者の割合	①5,000人 ②90%	①4,900人 ②90%	①4,100人 ②91%	①4,600人 ②85%	①各回1,000人、延べ5,000人の来場を目指す。 ②来場者の90%が当該事業に満足することを目指す。	①972人 ②80%	①C ②B	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、①来場者数は、5回開催予定を3回に縮小し、入場制限も実施し、②満足割合は、座席や飲食に様々な規制を設け、音楽イベント等を中止したこともあり、目標値を下回った。その影響を除けば、事前申込制や入場時の検温・手指消毒などコロナ対策を徹底し、安全安心なイベントとして適正に実施できた。また、来場者アンケートによれば、来場者の3割が市外から参加し、9割が周辺店舗で買物等をするなど、交流人口増加や地域商業振興にも寄与しており、成果指標以外にも相応の成果得た上で、事業を適正に実施できたため。	令和2年度と同様に、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、来場者数を増やすための効果的な情報発信と、密を作らずに楽しめるイベント・アトラクション等の取組みを検討する。
エスパルスを応援し、興味・関心を抱いている市民の割合	75%	73%	71%	67%	市民の75%が、エスパルスを応援し、興味・関心を抱くことを目指す。	63%	B	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、Jリーグの試合延期や入場規制等で、市民がエスパルスに接する機会が大きく損なわれたことが成果指標が目標値を下回った要因と考えられる。	令和2年度と同様に、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、より高い効果を期待できる事業・イベントを選定し、庁内各課への声掛け等を積極的に実施する。特に、エスパルス創設30周年に向けた事業を検討する。
サッカーのまちである本市に愛着を抱く市民の割合	70%	68%	67%	67%	市民の7割程度が、サッカーをきっかけに、地域に愛着や誇りを抱くことを目指す。	54%	B	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、Jリーグの試合延期や入場規制等で、市民がエスパルスに接する機会が大きく損なわれたこと、また、その他のサッカー大会等も中止が相次ぐなど、市民がサッカーに関わる機会が少なくなったことが成果指標が目標値を下回った要因と考えられる。	令和2年度と同様に、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、各事業を適切に実施する。特に、エスパルスは、民間企業の協力を得て、キャリア教育メニューの充実を図りつつ、小学生だけでなく、中学生にも対象を拡大することを検討する。
①エスパルスを応援し、興味・関心を抱いている市民の割合 ②ベルテックスを知っている市民の割合	①75% ②55%	①73% ②51%	①71% ②-	①67% ②-	①市民の75%が、エスパルスを応援し、興味・関心を抱くことを目指す。 ②市民の55%が、ベルテックスを知っていることを目指す。	①63% ②55%	①B ②A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、大きな集客を図るイベントや啓発活動を実施できなかったため、①エスパルスの応援割合は目標値を下回った。その影響を除けば、同協議会の主要事業であるイベントを、例年実施している参加体験型から、展示型に変更する等、今最善と思われる取組みを臨機応変に実施しており、成果指標以外にも相応の成果を得た上で、事業を適正に実施できたため。	令和2年度と同様に、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、より大きな効果が期待できる事業を同協議会とともに検討する。
①楽天未来塾への参加により、野球へ関心を持った参加児童の割合 ②プロ野球オープン戦(土、日)の来場者数	①85% ②16,000人	①81% ②無観客試合	①76% ②15,242人	-	①過去2年の実績から85%の児童が野球へ興味を持つことと目標とする。 ②過去のオープン戦来場実績から各日8,000人、計16,000人の来場を目指す。	①- ②7,590人	①- ②C	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、①野球へ関心を持った児童の割合は、当初予定していた小学校訪問を実施できなかったため計測できず、②来場者数は、対象2試合のうち1試合が雨天中止となり目標値を下回った。その影響を除けば、②は目標値の1試合換算8,000人の95%を達成した。また①は、未来塾の内容を収録したDVDを作成し、市内各小学校に配布するなど、今最善と思われる取組みを臨機応変に実施しており、成果指標以外にも相応の成果を得た上で、事業を適正に実施できたため。	令和2年度と同様に、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、より多くの市民が地域資源である野球に触れられるよう、交流事業の内容を充実させていく。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費			⑨人工		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
スポーツ交流課	335	大学野球オータムフレッシュリーグin静岡開催事業補助金	H 30 ~	補助等(交付先)	野球を通じた交流人口の増加及び参加者・関係者の交流を促進し、野球を活かしたまちづくりを推進する。	毎年11月に開催される「大学野球オータムフレッシュリーグin静岡」の主催者である実行委員会への補助金交付	①補助金交付に係る事務処理の円滑な実施 ②実行委員会の運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	2,000	0	1,100	0.2	0.0
	336	日本平動物園運営委員会	S 44 ~	市(直営)	動物園、遊戯施設、駐車場及びその他の施設を適正かつ効率的に運営するにあたり、広く市民の意見を反映させるため、調査・審議を行う。	運営委員会を開催し、日本平動物園の運営に係る案件の審議を行う。	運営委員会開催数	2回	2回	一般	138	—	115	0.2	0.0
	337	動物園管理運営事業	S 44 ~	市(直営・委託)	適切な管理・運営の下、観光拠点施設として、来園者数の増加及び利用者満足度の向上を図る。	①来園者増加に向けた広報事業 ②年間を通じた多彩なイベント開催 ③来園者への安全な施設の提供	①広報活動(報道提供等の情報発信)の実施回数 ②動物園イベントの実施回数 ③施設の定期的な点検と修繕	①150回 ②15回 ③実施	①201回 ②16回 ③実施	一般	506,594	—	458,807	32.8	10.0
338	教育普及事業	S 44 ~	市(直営)	情操教育や環境教育の拠点として、「動物を理解し、愛情と思いやりをもって生活し、それを次世代に伝えていける人」を育成する。	動物などを通じての教育普及活動	幼児動物教室の実施回数	120回	129回							
339	種の保存事業	S 44 ~	市(直営)	動物の行動や環境エンリッチメント等の研究を行い、希少動物種の繁殖を図る。	希少動物種の繁殖推進 ※希少動物:IUCN(国際自然保護連合)レッドリスト(CR、EN、VU)又はワシントン条約附属書I、IIに該当する動物	繁殖のための研究実施件数	2件	4件							
日本平動物園	340	大型動物導入推進事業	H 30 ~	市(直営・委託)	新たなアジアゾウ導入の可能性について調査を行う。	アジアゾウを導入するための情報収集及び原産国との協議等に関する調査を行う。	導入可能性調査	実施	実施	一般	6,305	—	330	1.0	0.0

成果(アウトカム)					評価及び次年度以降に向けた課題・改善など					
⑩成果指標(アウトカム指標)					実績値	達成度	⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容	
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値								当該年度の目標値の算出根拠
		R1	H30	H29						
①大会に満足した来場者の割合 ②市外からの来場者の割合	①80% ②60%	①— ②56.5%	—	—	①満足度は、今年度からアンケートで徴取する項目となるが、これまでのアンケートの自由意見で好意的な意見が多かったため、80%を目標とする。 ②市外からの来場者割合は昨年度実績より、60%を目標とする。	①75% ②50%	①A ②B	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、①来場者満足度は、概ね目標値を達成し、②市外来場者割合は、国県等の方針で、市外からの来場規制があったため目標値を下回ったが、その影響を除けば、来場者の96%がまた来たいと回答し、また、市内高校生約25人を対象としたオンライン野球教室も開催する等、今最善と思われる取組みを臨機応変に実施しており、成果指標以外にも相応の成果を得た上で、事業を適正に実施できたため。	令和2年度と同様に、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、より多くの市民が地域資源である野球に触れられるよう、大会を円滑に開催する。また、参加大学の学生有志による企画チームが大会運営を担っているため、学生が入れ替わっても、前回大会までのノウハウをいかに継承していくかが課題であるため、実行委員会と連携をとり、大会の安定的運営に協力していく。
①委員会への付議件数 ②委員会からの審議結果への対応	①3件 ②実施	①3件 ②—	①3件 ②—	①3件 ②—	①当園の運営及び行事計画、入園者の誘致などの事項について3件以上付議することを目標値に設定した。 ②委員会からの審議に対する意見等に対して、対応可能な案件を実施することを目標値とした。	①3件 ②実施	①A ②A	A	計画どおり会議を実施し、審議案件数について、目標値を達成した。また、委員からの意見等に対して、改善実施、検討を行った。	当園の運営に関する必要案件について、引き続き詰っていく。女性委員登用割合向上のため、次期改選期に働きかけを強化する。
①来園者数 ②アンケートによる来園者満足度 ③事故発生件数	①280,000人 ②92% ③0件	①509,539人 ②86.7% ③1件	①539,395人 ②95.1% ③0件	①558,566人 ②93.2% ③0件	①令和2年度歳入予算根拠である55万人からコロナ禍による下方修正をし算出した。 ②過去3か年の平均値より算出した。 ③飼育動物の管理や園施設の定期点検等を実施し、来園者の安全を確保するため事故発生0件と設定した。	①372,147人 ②88% ③2件	①S ②A ③C	A	事故未発生は達成できなかったが、臨時休園を経た再開以降、感染予防対策の徹底により、安心安全な環境を来園者に提供した。来園者数及び満足度の実績値から、総合的に評価した。	当園の基本理念である「いのちを感じ、次世代につなぐ動物園」の実現のため、絶滅危惧種や動物たちの生息地の厳しい環境を来園者に伝え、生物多様性の保全について考えるきっかけを作る場の拡充をしていく。また、感染予防対策を継続しつつ、イベントの早期再開を目指していく。
アンケートによる幼児動物教室の理解度	80%	—	—	—	幼児動物教室は、動物とのふれあいを通じて、愛情や思いやりの心を育てることを目的とするため、その学びへの理解度80%を目標として設定した。	88.4%	S	S	幼児動物教室の参加者の理解度が、目標値を上回った。	幼児動物教室の充実と更なる満足度の向上のため、ニーズにあった教育事業となるよう適時見直しを図っていく。
希少動物の繁殖種数	5種	4種	5種	9種	動物園の使命である「種の保存」を実現するため、園の規模等を踏まえ、5種繁殖を設定した。	9種	S	S	開園50周年に導入した動物種などの繁殖実績数が目標値を上回った。	「種の保存」の実現のため、継続して大学等と緊密に共同研究事業を実施していくほか、他機関との情報及び技術の共有を図る。
①原産国選定調査 ②関係機関等への情報収集	①実施 ②実施	①実施 ②実施	①実施 ②実施	—	現在は、交渉先となる原産国の決定と導入に向けた可能性を調査する段階のため、調査実施を目標値として設定した。	①実施 ②実施	①A ②A	A	コロナ禍により原産国へ協議のための訪問ができなかったが、大型動物導入のための交渉先となる原産国の調査と情報収集を実施した。	コロナ禍における今後の情勢を見極めつつ、可能な時期に早期の訪問を検討する。また、他の原産国からの導入の可能性も含め調査を継続していく。